

初年次教育学会第6回大会

初年次教育から始めるキャリア教育



2013

主 催：初年次教育学会

共 催：金沢工業大学

平成25年9月12日(木)~14日(土)

金沢工業大学 野々市キャンパス

目次

ご挨拶	1
大会概要	2
ワークショップ一覧	4
ラウンドテーブル一覧	4
自由研究発表一覧	5
ワークショップ	7
ラウンドテーブル	14
大会シンポジウム	16
自由研究発表(13日)	
学士課程教育・オリエンテーション	18
ジェネリックスキル(1)	20
学習意欲・動機づけ(1)	21
学習成果・効果測定	22
キャリア教育(1)	23
医歯薬看護系(1)	24
アカデミックライティング	25
自由研究発表(14日)	
高大連携・新入生オリエンテーション・FD・SD	26
ジェネリックスキル(2)・教授法	28
学習意欲・動機づけ(2)	30
数理工系	32
キャリア教育(2)	34
医歯薬看護系(2)	36
大会参加のご案内	37
交通アクセス	38
キャンパスマップ	41
8号館フロアマップ	42
大会実行委員・事務局名簿	表3
アクセスマップ	表4

ご挨拶

この度、初年次教育学会第6回大会を、金沢工業大学野々市^{のいち}キャンパスにて開催することになりました。これまで設立大会を同志社大学、第1回大会を玉川大学、以降、関西国際大学、高千穂大学、久留米大学、そして昨年度は文京学院大学にて開催されました。各大会とも盛況で、初年次教育への関心の高さを大いに感じ取った次第です。

今回初めて北陸の地で、しかも理工系大学開催の運びとなりましたことを恐縮するとともに誠に光栄に存じております。

本大会では、主催大学企画のシンポジウム「初年次教育から始めるキャリア教育」、学会企画のワークショップ13件をはじめ、ラウンドテーブル3件、自由研究発表51件におよぶ会員の報告がございます。いずれも初年次教育担当者にとって有益で興味深いものであります。また本学会の特徴のひとつとして職員の方が多く参加されますので、職員の皆さんが自由に意見交換ができるラウンドテーブルも用意いたしました。

なお金沢への移動、錦地へのお帰りのことを勘案し、大会期間を初めて3日間とし、初日を正午開催、最終日を正午頃に終える日程を組んでみましたが、いかがでしょうか。これにより、ワークショップへの参加は最大3件可能となります。

金沢市は加賀百万石の大大名前田家の城下町として発展した歴史・文学のまちとして著名ですが、近年は「金沢21世紀美術館」、JR金沢駅の^{つづみもん}「鼓門」、「まちなかアート」など新しい顔も加わってきました。

9月の金沢は結構暑い日が続きます。フェーン現象に見舞われますと、本当に北陸か、と仰ることと存じます。もうひとつ金沢には「弁当忘れても傘忘れるな」という格言がございます。雨が多いということなのですが、実は「雨が似合う金沢」でもあります。

お時間がございましたら是非ともご散策いただければと存じます。

金沢工業大学はその金沢市の南部に隣接する野々市市に位置し、JR金沢駅からバスで30分ほどかかります。学生数約7,500名の理工系大学で、女子学生の割合9%の男臭い大学ですが、案外細かいところに気がつく学生が多い大学でもあります。大会期間中に、その学生諸君がキャンパス内をご案内いたしますので、本学の教育関連施設などをご視察頂き、学生諸君に本音をお尋ねいただければ幸いです。

会員皆様のご参加をお待ちするとともに、各大学の初年次教育への取り組み、成果、課題などを共有し、学生諸君が大学学修と生活とを豊かに過ごせるための具体的な教育方法やシステムなどをお持ち帰りいただけるよう期待しております。

初年次教育学会第6回大会実行委員会
委員長 藤本 元啓（金沢工業大学）

初年次教育学会第6回大会

「初年次教育から始めるキャリア教育」

主 催：初年次教育学会
 共 催：金沢工業大学
 日 時：平成25年9月12日(木)～14日(土)
 会 場：金沢工業大学扇が丘キャンパス

9月12日(木)

	行 事	8・201	8・204	8・301
11:00	受付開始			
12:30～	ワークショップ	WS-A	WS-B	
13:30～	13:30～	白川優治	安永 悟	13:30～
14:30	(120分) ワークショップ	(p.7)	(p.7)	WS-A
14:45～	ワークショップ	WS-A	WS-B	中村博幸他
	ラウンドテーブル	井下千以子	長山恵子	～16:30(p.8)
16:45	(120分)	(p.10)	(p.10)	
17:00	理事会	～18:30		

9月13日(金)

	行 事	8・201	8・204	8・301
8:30	受付開始			
9:20～	ワークショップ	WS-A	WS-B	WS-C
	ラウンドテーブル	濱名 篤他	川島啓二他	関田一彦
11:20	(120分)	(p.11)	(p.11)	(p.12)
11:30～	総 会 ～12:10	総 会		
13:00	開会式・シンポジウム(6号館多目的ホール)			
16:00～	自由研究発表			学士課程教育・ オリエンテーション
18:00				(pp.18-19)
18:15	懇親会(21号館「ラテラ」)	～19:45		

懇親会終了後、金沢市中心部(片町、香林坊、武蔵ヶ辻)経由、JR金沢駅行きの無料バスを運行します

9月14日(土)

	行 事	8・201	8・204	8・301
8:30	受付開始			
9:20～	自由研究発表			高大連携・新入生 オリエンテーション
11:50				(pp.26-27)
12:00	閉会式	閉会式		

【お知らせ】

- ・学生による学内見学ツアーを実施します。所要時間は約1時間です。予約は不要ですので、下記時刻に受付（42ページ参照）付近へお越しください。

12日（木） 11:00、12:00、14:45

13日（金） 10:00、11:40、16:00

- ・13日（金）の懇親会終了後、金沢市中心部（片町、香林坊、武蔵ヶ辻）経由JR金沢駅行きの無料バスを運行します。
- ・金沢駅および金沢市中心部と大学のアクセスについては、38ページ以降をご覧ください。
- ・14日（土）は学園休業日のため、厚生棟を利用できません。ご注意ください。

“WS”はワークショップを、“RT”はラウンドテーブルを示しています

8・304	8・308	8・401	8・404	8・406	8・409
13:30~ WS - B 横山千晶 ~16:30 (p.8)	13:30~ WS - C 杉谷祐美子 ~16:30 (p.9)	13:30~ RT - 清水 亮他 ~16:30 (p.14)	RT - 藤本元啓他 (p.14)		

8・304	8・308	8・401	8・404	8・406	8・409
WS - D 【キャンセル】	WS - E 田中 岳他 (p.13)	WS - F 藤田哲也 (p.13)	RT - 水町龍一他 (p.15)		

ジェネリックスキル（1） (p.20)	学習意欲・ 動機づけ（1） (p.21)	学習成果・効果測定 (p.22)	キャリア教育（1） (p.23)	医歯薬看護系（1） (p.24)	アカデミック ライティング (p.25)
------------------------	----------------------------	---------------------	---------------------	---------------------	----------------------------

8・304	8・308	8・401	8・404	8・406	8・409
ジェネリックスキル（2） ・教授法 (pp.28-29)	学習意欲・ 動機づけ（2） (pp.30-31)	数理工系 (pp.32-33)	キャリア教育（2） (pp.34-35)	医歯薬看護系（2） (p.36)	

ワークショップ・ラウンドテーブル一覧

ワークショップ

ワークショップ

- A 新しい学習環境と学修支援を考える(白川 優治)..... p.7
- B LTD 話し合い学習法(安永 悟)..... p.7

ワークショップ

- A 実際の指導を意識した授業づくり 初年次ライティング指導を例にとつて(中村 博幸、山本 啓一、成田 秀夫)..... p.8
- B 頭と体の柔軟体操 言葉と身体ワークショップ身体知ワークショップ(横山 千晶).... p.8
- C 総合的な初年次教育プログラムを編成する(杉谷 祐美子)..... p.9

ワークショップ

- A 思考を鍛えるライティング指導法 初年次や入学前の学生を対象として(井下 千以子). p.10
- B 初年次学生に対するプレゼンテーション指導法(長山 恵子)..... p.10

ワークショップ

- A 初年次教育のデザインとアセスメント・プラン(濱名 篤、山田 礼子)..... p.11
- B 初年次からのキャリア教育をデザインする(川島 啓二、立石 慎治)..... p.11
- C 協同学習の考え方と進め方(関田 一彦)..... p.12
- D【キャンセル】
- E 初年次学生に対する上級生のサポートをいかに組織化するか
～頼りになる上級生たちを生み出す方略～(田中 岳、森川 園子)..... p.13
- F【初年次教育学会誌編集委員会企画】初年次教育学会誌への投稿論文の書き方(藤田 哲也). p.13

ラウンドテーブル

ラウンドテーブル

学生の主体的学びを伸ばす授業の創り方:初年次教育の授業デザイン、学生が楽しみ学ぶ授業実践法、学習環境と学習支援に求められるもの(清水 亮、鹿住 大助、上野 寛子).... p.14

ラウンドテーブル

初年次教育における職員の役割について 職員主体と教職協働(藤本 元啓、川邊 宏、山崎 千鶴)..... p.14

ラウンドテーブル

理数系初年次教育の課題と進め方(水町 龍一、西 誠)..... p.15

自由研究発表一覧

13日(金)

学士課程教育・オリエンテーション	pp .18-19
沖縄キリスト教短期大学英語科における入学前教育と初年次教育について(城間 仙子)	
キャリア教育を見据えた初年次の英語教育(中山 千佐子)	
ジグソーパズル型初年次教育の可能性 ～「初年次導入」クラスを作らずに導入してみる～(村上 学)	
学習者の意思を反映した新しい時代の新しい教養に関する考察(山邊 昭則)	
ジェネリックスキル(1)	p .20
複合型プログラムを通じたソーシャル・スキルの養成(黒田 友貴)	
初年次学生にクリティカルシンキングを涵養する方法 - 初年次教育テキストの分析に基づく検討 -(久保田 祐歌)	
地域課題をテーマした学部混成ワークショップによるジェネリックスキルの育成(吉村 充功)	
社会における基礎力としてのキー・コンピテンシー - 育成の為の授業事例を中心に -(中村 博幸)	
学習意欲・動機づけ(1)	p .21
工科系大学の教職課程における初年次教育(木村 竜也、伊藤 大輔)	
行動変容ステージ毎の体力変化に対するポートフォリオの影響(青木 隆、川尻 達也)	
自校教育におけるテレビ映像の活用(近藤 尚)	
学術団体が初年次教育の教科書を開発する意義 - 漢字文献情報処理研究会による取り組みを例に -(師 茂樹)	
学習成果・効果測定	p .22
ルーブリックの活用による「音楽」の学習効果について(朝日 公哉)	
全学的に行われる初年次教育のプログラムの評価と課題(遠海 友紀、村上 正行)	
大規模学生調査データベースのニーズとその構築 - JCIRPDB作成の試み -(堺 完、他3名)	
「自己評価型簡易ルーブリック」の試行 ～ジェネリックスキルの効果測定に向けて～(古賀 暁彦)	
キャリア教育(1)	p .23
キャリア教育と進路指導の教職協働の成果と課題(辰島 裕美)	
初年次におけるキャリア教育導入の試み - 東京国際大学を事例として -(田部井 潤)	
福岡工業大学の全学初年次必修科目「キャリア形成」による就業力育成の効果(小田部 貴子、他3名)	
利用度を高める電子ポートフォリオを目指して(絹川 直良)	
医歯薬看護系(1)	p .24
医療関係専門学校における初年次教育の実施に関する実態報告(第3報)(河井 正隆、畑中 仁美)	
理学療法士養成校としての初年次教育の在り方の検討 - 本学理学療法専攻における実践紹介 -(鈴木 誠、他4名)	
学生特質を活かした看護学科における初年次教育としての「基礎ゼミ」の役割(鮫島 輝美、他3名)	
アカデミックライティング	p .25
ディベートとコラボで行うレポートライティングの実践報告(西田 みどり)	
文字情報の共有に基づく文章作成・読解指導の改善 - 聴覚障がい学生を交えた初年次ゼミ指導 -(藤波 潔)	
自己省察としての文章表現 「日本語リテラシー」の教育実践を事例として(谷 美奈)	

14日(土)

高大連携・新入生オリエンテーション・FD・SD	pp .26 - 27
関西大学における高大連携の試み ~Kan-Daiネットワーク・セミナーの実践内容とその成果~(小林 至道)	
熊本保健科学大学における「教・職・学」協働の取組み ~新入生オリエンテーションにおけるピア・サポーターの参画事例~(河瀬 晴夫)	
ARCSモデルに基づく授業改善による成果とその要因分析 -1年生向けキャリア科目の学生評価とジェネリックスキルの成長値を比較して(見館 好隆)	
学生と共に学生の主体的な学びを推進するFD:授業デザイン・実践・学習環境・学習支援のあり方(清水 亮)	
ジェネリックスキル(2)・教授法	pp .28 - 29
学生の対話力やセルフチェック力を高める<型>をいかした文章表現の試み(坂東 実子)	
高校での学習スタイルを大学での学びに結び付ける試み -ノートを中心とした講義展開(皆川 雅章)	
私立文系大学生の演繹力についての調査結果(何をどう間違うのか)(萩尾 由貴子)	
京都大学における全学共通教育国際学生シンポジウムの初年次教育での有用性の検討(木岡 樹、小山田 耕二)	
学習意欲・動機づけ(2)	pp .30 - 31
修学アドバイザーの効果と課題 -GPA推移および面談票に基づく分析-(古阪 肇、森下 稔)	
大学生の状況に応じた支援の在り方を検討するための基礎調査(2)-帝京平成大学児童学科初年次学生における一年間の不安変容-(奥井 智一朗、大貫 麻美)	
初年次教育における海外体験学習の意義と課題 ~立命館アジア太平洋大学の「FIRST」を事例として~(立山 博邦、秦 喜美恵)	
図書館利用を促進する授業デザイン(上野 寛子)	
数理工系	pp .32 - 33
高大接続教育をめざす「高大連携数理教育研究会」の実践(大久保 貢)	
工科系大学新入生の入学から3ヵ月後の満足感および適応感に影響を与える要因 -大学進学動機・学業状態および友人関係からの影響-(石田 拓矢)	
工学院大学情報学部初年次教育の成果と今後の展望(二上 武生)	
初年次教育で出た芽を専門教育で如何にして育むか・理系専門基礎科目での試み(滝澤 昇)	
キャリア教育(2)	pp .34 - 35
初年次キャリア教育のデザイン:進路決定効力感の観点から(伊藤 大輔、木村 竜也)	
ポジティブ心理学モデルに基づく初年次教育による肯定的自己観の育成(稲垣 久美子)	
初年次段階における全学生を対象としたキャリアカウンセリングでの効果:大手前大学における教育ボランティア実践(竹内 一真)	
「社会人セミナー」が初年次における学生のキャリア意識に与える影響(安田 俊一、他2名)	
大学入学者のキャリア成熟に関する一考察:お茶の水女子大学「新入生の生活に関する調査」を通して(望月 由起)	
医歯薬看護系(2)	p .36
医療系科目におけるアクティブラーニングの導入(小西 正良)	
学習方法フローチャートを継続的に用いた初年次学習支援の成果(久司 一葉、他3名)	
看護大学のフィールドワークを通じた社会人基礎力の育成(垣花 渉、川村 みどり)	
医療・看護系大学院初年次生に対する論文作成指導 -序論の構成要素に着目して-(井下 千以子)	

ワークショップ

ワークショップ

9月12日(木) 12:30~14:30(120分)

A：新しい学習環境と学修支援を考える

会場：8・201

担当者：白川 優治（千葉大学）

キーワード：新しい学習環境、学習支援、アクティブラーニング、ラーニングコモンズ

概要：本ワークショップは、大学における新しい学習空間と学習支援の在り方を、参加者同士で考えるものである。現在、大学教育には、アクティブラーニングの導入が推奨され、学習成果の向上のために学生の自発的・自主的学習の拡充が求められている。大学が、大学教育に対するこのような現代的要請にこたえていくためには、教育プログラム・授業科目の開発や教授方法の工夫だけでなく、それを支えるための、これまでの伝統的な教室や施設設備とは異なる新しい学習環境や学習支援の在り方を、ともに考えていくことが必要であろう。また、視点を変えると、デジタル機器やソフトの普及を背景に、初等中等教育においてデジタルデバイスを用いた学習が導入されるなど、高大接続の観点からも、大学における学習環境の見直しも必要となっている。このような政策的・社会的要請や現実的变化のなかで、現在、各大学では、ラーニングコモンズの整備、電子黒板や電子デバイスの活用、授業録画・配信など新しい学習環境の導入が取り組まれており、その効果的なあり方が模索されている。

このような動向を背景に、本ワークショップでは、参加者からそれぞれの大学での学習環境の充実のための取り組みと課題を共有したうえで、新しい学習環境と学習支援について考えていきたい。

B：LTD話し合い学習法

会場：8・204

担当者：安永 悟（久留米大学）

キーワード：LTD、読解力、文章作成力、協同学習、授業づくり

概要：LTD（Learning Through Discussion）は、文章読解の理想的で実践的な学習法であり、対話法です。本学会では授業外学習時間が増える学習法と紹介した方が、通りがいいかもしれません。

本ワークショップでは、LTDの基本的な考えと実施方法を、具体的な課題文を用いて体験的に理解します。また、大学授業への導入方法についても検討します。

LTDは協同学習の一技法であり、個人による予習と集団によるミーティングによって構成されています。予習もミーティングも、LTDの基本的な考え方と手続きが凝縮されたLTD過程プラン8ステップ（雰囲気づくり、ことばの理解、主張の理解、話題の理解、知識との関連づけ、自己との関連づけ、課題文の評価、ふり返り）に沿って行います。参加者は過程プランに従って課題文を予習し、予習ノートを作成します。ミーティングでは、その予習ノートを手がかりに、仲間との対話を通して、課題文の理解を深めます。LTDを実践するには、LTDの基盤となる協同学習の考え方と技法の習得が前提となります。

LTDを獲得すると、PBLを初めとしたグループ学習や、グループ活動を組み込んだ体験学習など、いわゆるアクティブ=ラーニングの質を高めることができます。また、LTDによる読解力が基盤となり、文章作成力の育成にも役立ちます。

大きな可能性を秘めたLTDと一緒に学びませんか。お待ちしております。

A：実際の指導を意識した授業づくり 初年次ライティング指導を例にとって

会場：8・301

担当者：中村 博幸（京都文教大学） 山本 啓一（九州国際大学） 成田 秀夫（河合塾）

キーワード：初年次演習、文章表現、授業設計、カリキュラム

概要：「初年次演習」の中でも、学生の「文章表現力」を高める為に、大なり小なり「文章表現」を意識した授業内容が多い。また「文章表現科目」だけを独立した科目として開講する場合もあり、その開講形態は多様である。さらに、担当者も複数となる事が多い。そしていざ開講となると、カリキュラム、シラバス、授業の運営はともすれば担当者の持つ経験やノウハウにまかされる事が多い。この事から複数担当者の場合は、担当者間での教育目標や授業スタイルの違いから、シラバスの不統一（自由裁量）につながりやすい。その結果、指導計画や教材・配布資料も、各担当者が個別に準備する事になりやすい。

前回までのワークショップでは、開講にあたり押さえる（準備する）事は何か、学生の状況把握や到達目標を設定する事と共に、カリキュラムに担当者が採用する教育観や学習観とはどのようなものかを考える事にポイントを置いた。

今回はそれに加え、開講時にはゆるいコーディネイト方式からスタートし、担当者が教育観・学習観を共有する事により成功に導いた事例をシミュレートしながら、参加者が抱える具体的な課題をシェアし解決するヒントが得られる様な、ワークショップを開催したいと考える。

B：頭と体の柔軟体操 言葉と身体のワークショップ身体知ワークショップ

会場：8・304

担当者：横山 千晶（慶応義塾大学）

キーワード：身体知、からだと言葉、想像力、コミュニケーション

概要： 身体を見据えたコンテンツをどのようにカリキュラムの中に意識的に取り入れていくのかは、高等教育の各分野で現在真剣に思考され試行されているテーマである。座学中心のカリキュラムの中にいかにして、身体性を導入したらよいのか、また体験したことを言語によりふたたび発信していくためにどのような方法があるのかについても、盛んに議論がなされている。このワークショップでは、想像力と身体的な「気づき」、および協働による活動を通して、からだと言葉をつなぎ合わせることにより、大学初年次にふさわしい言語力と思考力を構築する方法を模索するものである。ワークショップでは、英語による文学作品を題材とするが、目指すところは、学生の専門にかかわらず応用が可能な身体知教育である。言語を音としてとらえたときにどのような想像力が喚起されるのか、そしてその想像力を身体的な創造へとつなげるときにどれほど書かれているものの内容理解につながっていくのかを参加者とともに探ってみる。ワークショップの内容は以下の通り。

I 共同での活動に入る前に

1) アイス・ブレイキングのいくつかの手法

言葉と身体のワークショップ

2) 言葉を声に出して読んでみる

3) 言葉から様々なことを想像してみる

4) 想像したことを演じてみる

再び言語化へ

5) 映像を見てみる

6) ふりかえり

なお、このワークショップは180分です。身体を動かしますので、動きやすい格好でご参加ください。

C：総合的な初年次教育プログラムを編成する

会場：8・308

担当者：杉谷 祐美子（青山学院大学）

キーワード：教育プログラム、到達目標、コンテンツ、総合的

概要：「第2ステージ」に入った日本の初年次教育は、多様な実践活動を蓄積し、相互に情報共有するだけでなく、そうした様々なコンテンツからより効果的な教育内容・方法を精選しつつ、総合的で体系的なプログラムとして編成することが求められている。本ワークショップは、今年で6年目を迎える。毎年、個人作業・協同作業を織り交ぜたアクティビティを行い、そのワークの成果を翌年に反映させながら、内容を徐々に発展させてきた。これまでを振り返ると、1年目は初年次教育の多様なコンテンツに関する情報収集と整理、2年目はスチューデント・スキルの育成を機軸にしたプログラム実施の提案、3年目は3科目で構成するプログラムの到達目標と具体的内容の考案、4年目はプログラム編成の際に参考にしたい点、新たに試みたい点等の検討、5年目は各グループでベスト3のプログラムを選び、その理由と改良点を発表してもらった。6年目の今年は、昨年に引き続き、これまでのワークの成果を総括し、そこで提案された初年次教育の到達目標やコンテンツを整理したうえで、グループごとにそれらの評価と発展を検討してもらい、フロアとともに総合的な教育プログラムの編成方針とプログラムのバリエーションを探ることを目標とする。また、今年は議論の時間を十分にとってワークを進める予定である。

A：思考を鍛えるライティング指導法 初年次や入学前の学生を対象として

会場：8・201

担当者：井下 千以子（桜美林大学）

キーワード：ライティング指導、思考を鍛える、初年次・入学前、学びあい、授業実践

概要： 初年次や入学前の学生を対象としたライティング指導に関する体系的な知識と実践力を身につけるためのワークを提供することを目的とする。まず、参加者が、ライティング指導に関して、どのような関心を持っているのか、どのような授業実践をしているのか、問題を抱えているのかを、日常の授業の問題を出し合い、相互に現状の理解を深める。その上で、企画者が、テキストを開発した経緯や意図、授業での活用法を紹介する。様々な事例から、有益で実用的な指導法について検討していく。初年次や入学前の学生の関心やレベルに合わせ、段階を踏んで無理なく学ぶためにはいかなる指導の工夫が必要か。特に、大学1年次から4年次、卒業後までを俯瞰させる授業設計、考え抜く経験をさせるライティングの課題内容や、他の授業との連関、学士課程カリキュラムにライティング指導をどう埋め込んでいくのかなど、多面的に、問題を析出し、共に学びあう場を提供していきたい。

B：初年次学生に対するプレゼンテーション指導法

会場：8・204

担当者：長山 恵子（金沢工業大学）

キーワード：プレゼンテーション技法、動機付け、評価方法

概要： 初年次教育においても座学中心の授業からの脱却を図り、グループ討議やグループ演習などを実施し、その結果をプレゼンテーションさせる授業が増えています。プレゼンテーションの実施にあたっては説明内容の充実度を評価することは当然ですが、聞き手に伝えるための技法（話し方や態度、提示資料の作成方法）も重要であることを併せて指導する必要があります。

本ワークショップでは、プレゼンテーション技法の説明におけるポイントとその技法を活用するための演習の進め方を理解します。さらに演習を通して学生が自身のプレゼンテーションの良い点と改善点を把握するための評価方法とそのフィードバック方法についても検討します。参加者の皆さんにも実際に演習の一部を体験していただきます。

以下にワークショップの流れ（予定）を示します。

- 1．ウォーミングアップ（自己紹介、アイス・ブレーキングなど）
- 2．プレゼンテーション技法の説明
 - 1）内容のまとめ方（ストーリー展開を考える）
 - 2）話し方
 - 3）提示資料の作成
- 3．プレゼンテーション演習
 - 1）演習の進め方
 - 2）評価の仕方

ワークショップ

9月13日(金) 9:20~11:20(120分)

A：初年次教育のデザインとアセスメント・プラン

会場：8・201

担当者：濱名 篤（関西国際大学）山田 礼子（同志社大学）

キーワード：初年次教育のデザイン、評価方法、学生調査、授業評価、プログラム評価

概要：初年次教育は、最近では大多数の大学に取り入れられ、普遍化している。しかし、初年次教育を高校から大学への重要な移行期として位置付けデザインするにせよ、専門への導入として位置付ける場合にせよ、あるいはスタディスキルの獲得を主な目的とするにせよ、そこには共通の初年次の到達すべき目標がある。本ワークショップでは、そうした初年次で学生が獲得すべきスキル等を包含した初年次教育のデザインは何かそして、そうした初年次教育の評価にはどのような評価があるかを議論する。

初年次教育の評価には、さまざまな方法がある。例えば、学生調査、授業評価、プログラム評価、ポートフォリオ評価等が代表的な評価法である。こうした方法のどれが適切であるか、どれが効果的であるかは学生の特徴やプログラムの性質によって異なる。言い換えれば、多様な大学や多様な学生の存在により、適切な評価方法も多様であるともいえる。

本ワークショップでは、参加者が自分の大学の初年次教育のデザインについて語り合い、また使用あるいは利用している評価方法を互いに紹介しながら、その特徴、利点などをより深く分析することによって、自分の大学にも応用できるような初年次教育のデザインと他の評価方法を取り入れていく可能性について考えていく。いかに他の科目や上級学年への学びにつなげるための、初年次教育のデザインや評価方法とは何かについても考察することも目標とする。

B：初年次からのキャリア教育をデザインする

会場：8・204

担当者：川島 啓二（国立教育政策研究所）立石 慎治（東北大学）

キーワード：キャリア教育、学士課程教育、カリキュラム

概要：初年次教育とキャリア教育の関係については、本学会発足時からの重要な課題でありながら、それを具体的にどのように構成していくのか、そのための方法論の開発は十分ではない。この観点から、当ワークショップでは、学士課程教育、キャリア教育、そして初年次教育の関係性を視野に入れつつ、各参加者の所属機関におけるキャリア教育について捉え直すことを目指す。

前半は、ワークショップ担当者のショートレクチャーの後、参加者の所属機関において行われているキャリア教育の実践事例について、分析するアクティビティを行う。後半は、前半を踏まえつつ、大会テーマの「初年次」から「のキャリア教育」とも連動させながら、学士課程全体にどのようにキャリア教育を繋げるか、この視点から眺めると、どのようにキャリア教育のプログラムを（再）構築できるのか／せざるを得ないかを考え、互いにアイデアを創出するアクティビティを行う。ワークショップ終了時には、各参加者の所属大学の実践について、その改善プランを完成させるのが目標である。

したがって、このワークショップに参加を希望される方は、1)所属機関の学士課程カリキュラム（任意の学部の物で差し支えない）、2)キャリア教育関連の実践事例、の2つに関する資料をご持参下さい。

ワークショップ

C：協同学習の考え方と進め方

会 場：8・301

担 当 者：関田 一彦（創価大学）

キーワード：協同学習、グループ学習、Active Learning

概 要： 初年次教育学会の参加者の中に、教育学を専門にする方々は少数でしょう。むしろ、多様な専門の先生方が、大学の初年次における指導技法や教育方法を学び合うために参集されたと思っています。そこでこのワークショップでは、協同学習の技法のいくつかを使って、初年次教育における協同学習の意義、一般的なグループ学習に比べたときの協同学習の特長、そして 協同学習の代表的な定義について、参加者同士の交流を通じて学び合いたいと思います。

ワークショップですから、参加者の皆さんには実際にグループ活動をして頂きます。ご自身の体験から協同学習の考え方や進め方のイメージを掴み、理解を深めて頂ければ幸いです。

以下、ワークショップの流れ（予定）を示します。

- ・ウォーミングアップ（自己紹介など）
- ・背景説明：Active Learning と初年次の課題（学習の構え・社会人基礎力）
- ・意義説明：グループ学習の弱点とCLの効用
- ・定義説明：Johnson や Kagan の定義
- ・振り返り：学んだことの確認と承認
- ・締めめのコメント（Q&A）

D：【キャンセル】

E : 初年次学生に対する上級生のサポートをいかに組織化するか ~ 頼りになる上級生たちを生み出す方略 ~

会 場 : 8・308

担 当 者 : 田中 岳 (九州大学) 森川 園子 (国際基督教大学)

キーワード : 上級生、上級生のサポート、教職員、研修

概 要 : 上級生からのサポートは、初年次学生が大学に馴染んでいくための重要なリソースといえるでしょう。先輩たちの頼もしい振る舞いを身近に感じられることで、不安な大学生活のスタートが前向きなものになるからです。大学生というロールモデルを提供する上級生たちの役割は、教職員や保護者の役割とは異なるものです。

とはいえ、初年次学生の傍らに上級生を配置さえしておけば好循環が発生するとは限りません。上級生たちを大学スタッフへと育てる工夫が求められます。上級生たちがスタッフとして働く自覚をもつためには、どのようにして大学の活動へ巻き込めばいいのでしょうか。

本ワークショップでは、上級生に対する研修の実施について参加者全員で集合知を創出したいと考えています。研修プラン作成に資するアイデアやヒントを可視化する試みです。

[目標] ワークショップ終了後には、参加の皆さんが、所属大学における課題解決への道筋を自分の言葉で語るができるようになる。

[役割] 担当者は会場の相互作用を活性する進行に努めますので、参加の皆さんには主体的な活動をお願いいたします。

[過程] ミニレクチャーとダイアログという対話方法を織り交ぜながら、各参加者が省察する場を設け、最後に会場全体での共有までを計画しています。

F : 【初年次教育学会誌編集委員会企画】初年次教育学会誌への投稿論文の書き方

会 場 : 8・401

担 当 者 : 藤田 哲也 (法政大学)

キーワード : 初年次教育学会誌、編集委員会、投稿論文、研究論文、査読

概 要 : 本第6回大会開催の時点で、「初年次教育学会誌」は第5巻第1号まで発行済みであり、次の第6巻第1号の発行に向けて編集作業を行っている最中である。編集委員会としては、より多くの会員から本誌への投稿論文が寄せられることを望んでいる一方で、掲載する論文については一定の質を保つことに責任を負うという立場にもある。実際に、過去に投稿された論文の中には、残念ながら我々の求める基準に合わずに、掲載できなかったものもある。大学教育においても、到達目標や評価基準を明示することが必須になっている。とりわけ本学会のように、会員の持つ学問的背景に多様性がある場合には、投稿論文に対してどのような観点および基準で査読を行うのかを、事前に周知しておくことが望ましいと考える。そこで本大会ではこの編集委員会企画を、論文の体裁・書式に関する基本事項の確認からはじめ、「研究論文」「事例研究論文」それぞれについて掲載可と判断するための最低限必要な要素についての、編集委員会の意向を会員の皆様に説明する機会としたい(昨年度までとほぼ同内容)。

ラウンドテーブル

【ラウンドテーブル】.....9月12日(木)13:30~16:30(180分)

学生の主体的学びを伸ばす授業の創り方:初年次教育の授業デザイン、学生が楽しみ学ぶ授業実践法、学習環境と学習支援に求められるもの

会場:8・401

企画・司会者:清水 亮(同志社大学 学習支援・教育開発センター)

報告者:鹿住 大助(島根大学 教育開発センター)、上野 寛子(明治学院大学 教養教育センター)

概要: 昨夏の中教審答申では、大学教育のさらなる「質的転換」を求めている。学生が、何ができるようになったのかが問われている。初年次教育においては、多様な学生に対応できる授業デザイン・実践・サポートが重要となっている。このテーブルでは、まず、初年次セミナーの授業デザインと実践のあり方について島根大学の鹿住先生に、次に、学生を魅せることによって授業を推進する明治学院大学の上野先生にそのノウハウをご紹介いただき、そして清水が、FDの観点から、「質的転換」とキャリアパスの見える化のための学習環境・学習支援のあり方について話題提供し、フロアとともに、学生の主体的学びを伸ばす授業の可能性、多様性について語り合いたい。

【ラウンドテーブル】.....9月12日(木)14:45~16:45(120分)

初年次教育における職員の役割について 職員主体と教職協働

会場:8・404

企画・司会者:藤本 元啓(金沢工業大学 基礎教育部修学基礎教育課程)

報告者:川邊 宏(金沢工業大学庶務部長)、山崎 千鶴(玉川大学学士課程教育センター)

概要: 本学会の会員には多くの大学職員がいる。他の学会ではほとんど見られない大きな特徴である。職員の参加目的のひとつが他大学の事例情報の収集にあることは間違いない。しかし、収集した情報は勤務先で生かされているのだろうか。教員と職員との間の様々な障壁はどの大学にもあり、その壁は高くそして厚く、どうすべきかと頭を抱える職員も多い。そこで本ラウンドテーブルでは、まず2名の大学職員が職員主体と教職協働による初年次教育への取り組みの具体例と成果、またその計画・実施過程において生じた問題と解決事例を報告する。次に参加者とともに悩みを含めた自由な討論を行い、職員による初年次教育への関わりを職員の立場から考えてみたい。

【ラウンドテーブル】..... 9月13日(金)9:20~11:20(120分)

理数系初年次教育の課題と進め方

会場：8・404

企画・司会者：水町 龍一（湘南工科大学）

報告者：西 誠（金沢工業大学 基礎教育部）

概要：多くの理工系学部では、教育の必須の前提である知識の不足、中教審学士力答申に言う「態度・志向性」に繋がるべき学習意欲や自主性の不足、学校教育でも強調される思考力・表現力等の不足が深刻な入学者が見られる。これら個々の現象に別々に対応するのではなく、一貫した立場からの統合な教育が求められるのではないか。伝統的な実験・実習・概論など既存諸科目の接続教育としての役割も重視しつつ、これらと一体となった初年次教育の推進が必要であろう。育成すべき諸能力や学習意識の評価規準・水準を明確にし、その水準を引き上げる教育方法の共有が必要である。以上の問題提起につき議論を深め、各大学での経験を共有し、改善の方向を探りたい。

シンポジウム

「初年次教育から始めるキャリア教育」

日 時：13日（金）13:00～15:45

会 場：6号館多目的ホール

企画趣旨

平成23年4月1日施行の大学設置基準改正(42条の2として新設)により、高等教育における教育課程の内外において、学生が「社会的及び職業的自立を図るために必要な能力」を培うことができる指導、つまりキャリアガイダンス・キャリア教育が義務化されました。

大学では、インターンシップやキャリアセンターの強化、キャリア関係科目の増設、その他様々な手法によってキャリア形成・就職支援に躍起となり、初年次教育においても重要な位置を占めています。一方では「キャリア教育とは就職対策・支援であるから教育・研究とは別物」と理解する大学や教職員もいらっしゃいます。このように大学、教職員によってその理解、考え方、取り組みは異なっているわけですから、取り組み事例の情報収集に奔走したり、アウトソーシングに担い手を任せたりするなど、模索状態であることは周知のとおりです。

そもそも「キャリア教育」とは何なのでしょう。乱暴ないい方をすると、初年次教育とは高校生から大学生への移行をスムーズにさせるための教育ですが、それと同じようにキャリア教育とは学生が社会人へスムーズに移行するための教育とってよいのかもしれませんが。

そこで本シンポジウムでは、第1部においてキャリア教育とは何か、また初年次教育から始めるキャリア教育がどのような意味を持つのか、学問と教養の要素を初年次教育の中に埋め込んだ取り組み、カリキュラムマップや、マイクロインサージョンという技法を活用しながら学生の能力に着目してそれを伸ばさせる初年次からの「仕組み」、青年期の自己理解の深化に焦点化したキャリア発達支援の具体的指導法など、キャリア教育が抱える多様な問題について4名のシンポジストからご報告をいただき、第2部においてフロアからのご意見・質問をもとに討論を行います。

参加者のキャリア教育展開の一助となる有益なシンポジウムとなることを期待しています。

第1部（13:00～14:30）

司会・趣旨説明：藤本 元啓（金沢工業大学）

報告

川嶋 太津夫（神戸大学）

井下 千以子（桜美林大学）

西村 秀雄（金沢工業大学）

白木 みどり（上越教育大学）

休憩・フロア質問回収（14:30～14:45）

第2部（14:45～15:45）

パネルディスカッション

大学のキャリア教育を考える

川嶋 太津夫（神戸大学）

2011年4月に、大学にとって大きな意味を持つ大学設置基準が2点改正されました。一つは、教育情報の公表の義務化であり、もう一つは「社会的・職業的自立に関する指導等」の義務化です。これが、いわゆる「キャリア教育」の義務化です。なぜ、キャリア教育が義務化されたのか。その背景は以下の6点が考えられます。

- 1．ほぼ二人に一人が大学に進学し、新規就職者のマジョリティが、今や大卒者で占められている。
- 2．就職率は時代の経済状況に左右されるものの、「就職氷河期」と呼ばれるような事態が生じている。
- 3．就職しても、3年以内に離職する大卒者が3割程度常に存在する。
- 4．就職者の職業や産業と、大学時代の専攻ともミスマッチが増大している。
- 5．大学教育が育成しようとしている能力と企業が求める能力とにミスマッチが存在するのではとの指摘が増えている。
- 6．近年、進学も就職もしない大卒者が増加している。

つまり、大学教育の「社会的レリバンス」に疑義が呈されたためと思われる。

では、このような要請に対して、大学は、どのようなキャリア教育を学生に提供すれば良いのでしょうか。文部科学省の審議経過や報告書を見ると、目指すべきキャリア教育は、「単に卒業時点の就職を目指すものではなく、生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指し、豊かな人間形成と人生設計に資すること」とあります。「持続的就業力」の育成こそが、今、大学に求められているのです。そこで、本報告では、どのように「持続的就業力」を育成すれば良いのか、報告者の考えを述べたいと思います。

大学での学びとキャリア教育をつなぐ

生涯発達心理学の視座から

井下 千以子（桜美林大学）

変動する社会とキャリア教育の現状を俯瞰し、大学教育におけるキャリア教育として、今、何が求められているのか、発達観の転換・学習観の転換・授業観の転換の3つの観点から問題を指摘する。その上で、生涯発達心理学の視座からキャリアを捉え、学問と教養の要素を、初年次教育の中に埋め込んだ取り組みを紹介し、議論のための話題提供としたい。

マクロ・ミクロ両面から、キャリア教育の実質化を考える

カリキュラムマップとマイクロインサージョン

西村 秀雄（金沢工業大学）

キャリア教育は、何かの科目を開講すればそれで即座に解決するような問題ではなく、教育課程全体を通してその実質化に取り組む必要がある。そのためにはマクロあるいはメゾレベルの視点に立ったカリキュラムマネジメントと、ミクロレベルでの「キャリア教育を普通の科目に埋め込む」仕組みづくりが重要であろう。今回は金沢工業大学が科学技術者倫理教育で実践しているカリキュラムマップを用いた科目間の連携と、そこで用いられている、ごく普通の科目に倫理的要素を織り込む「マイクロインサージョン」という技法を報告し、議論の一助としたい。

青年期のキャリア発達における自己理解に関する一考察

- 大学院生の自己理解プログラム学習を通して -

白木 みどり（上越教育大学）

近年、若者の社会への移行時において、リアリティショック等の様々な弊害が表出していることが報告されている。また、若年層のキャリア発達の遅延傾向が指摘され、キャリア発達支援のための効果的指導法が求められている。そこで、ここではSuper, D. E.の職業発達理論に依拠し青年期の自己理解の深化に焦点化した具体的指導法を提案するとともに実践の考察結果について報告する。

自由研究発表

13日(金)

学士課程教育・オリエンテーション

8・301

沖縄キリスト教短期大学英語科における入学前教育と初年次教育について 16:00 ~ 16:20
城間 仙子(沖縄キリスト教短期大学英語科)

沖縄キリスト教短期大学(英語科・保育科)は、第二次世界大戦の悲惨な経験とその反省に立って、「平和を創り出すもの」の育成を目標に設立された。設立56年目を迎えた2012年、英語科ではそれまで学内の様々な場所・機会で開催して行われていたプログラムを、改めて「初年次教育」という共通項で体系的に捉えなおし、さらに新規科目として「フレッシュマン・セミナー」を設置することで新たに初年次に向けたプログラムをスタートさせた。今年度は全学的にも初年次教育に対する意識の裾野が広がってきた。本発表では、BridgeProgram(入学前教育)、自校教育なども含め、2年目を迎えた英語科初年次教育プログラムの現状を報告する。

キャリア教育を見据えた初年次の英語教育 16:20 ~ 16:40
中山 千佐子(東海大学高輪教養センター)

大卒を採用する企業の中には、TOEICの点数を採用基準として定めているところも少なくない。そのため、在学中に何度かTOEICを受験し、高得点取得を目指すことは大学生の英語学習の目標のひとつとなりうる。しかしながら、入学時の英語習熟度が低い学生がいきなりTOEICの問題に取り組んでも高い効果は望めない。そのため東海大学高輪校舎では、1年次生対象に基礎文法を復習する選択英語クラスをレベル別に開講し、段階を踏んでTOEIC学習に取り組める体制作りを目指している。またこれらの選択英語クラスは必修英語クラスの内容も踏まえてプランされているため、両方を受講することで学習の相乗効果が期待でき、ひいては学習意欲を高め積極的に英語学習を続けさせるという狙いも持っている。本発表ではこれらの選択授業の実施について報告し、課題を検討する。

ジグソーパズル型初年次教育の可能性

~「初年次導入」クラスを作らずに導入してみる~ 16:40 ~ 17:00
村上 学(東京理科大学基礎工学部)

「初年次導入」クラスは一定の効果が上がっている一方で、「実質に合った単位評価方法が見つからない」「一部の学生のモチベーション低下」「専門教育との接続」等の問題点も抱えている。そこで、これらの問題を解消するアイデアとして、学修項目をリストアップして既存のクラス及びガイダンスなどに配分するジグソーパズル型を提案する。学生は学部教育全体の目標となる人物像を完成型とするピースを、各クラスやガイダンスの受講で集め、ラーニング・ポートフォリオでこれらのピースを総合する。本発表では「ジグソーパズル型」教育のアイデアの全体像を提示する。さまざまな立場から批判をいただき、より実行可能な仕組みに仕上げたい。

学習者の意思を反映した新しい時代の新しい教養に関する考察 17:00 ~ 17:20

山邊 昭則(東京大学教養学部附属教養教育高度化機構)

日本学術会議や教育関連学会での近年の議論から推察されるように、昨今、大学における教養教育の重要性が改めて注目されている。教養教育の内容は多様であり、基本的には教育の提供側(教員)が重要と考えるところに依拠して枠組みが設定される。他方で、旧来の伝統的なアプローチだけではなく、時代に即した教養教育への刷新が模索されていることも近年の特徴といえよう。本研究では、その文脈において、次の時代の担い手である「学習者」のアイデアを反映させる契機を設けることの意義を考察する。教養課程に属する学習者を対象として、本テーマについて考える授業を設け、そこから見える新しい教養教育のあり方について、検討を行う。

()内の発表者所属は、発表申込時のものをそのまま掲載しています

複合型プログラムを通じたソーシャル・スキルの養成 16:00~16:20
黒田 友貴(愛媛大学大学院教育学研究科学校教育専攻学校教育専修)

愛媛大学理学部では、平成23年度より初年次教育科目の授業に、1泊2日の合宿形式のプログラムを取り入れた。この科目はスタディ・スキルとソーシャル・スキルの養成を目的としており、合宿プログラムについても、毎年改善を行っている。特徴として、運営に理学部の先輩学生が深く関わっている。受講学生へのアンケートから、学びに対するモチベーションや理学部に対する帰属意識の向上がみられ、学習における協働を円滑にするための基礎作りには貢献していると思われる。本研究では、この合宿研修に着目し、プログラムや運営体制、アンケート結果を踏まえた、効果的な研修プログラムの在り方と課題について検討を行うことを目的とする。

初年次学生にクリティカルシンキングを涵養する方法

初年次教育テキストの分析に基づく検討 16:20~16:40
久保田 祐歌(愛知教育大学教育創造開発機構大学教育研究センター)

本発表は、大学初年次で学生に涵養すべきクリティカルシンキングの概念を、対応する教育方法と共に提示することを目的とする。現在、初年次におけるクリティカルシンキングの教育は、自分で筋道立てて考えて吟味するという学びへの転換と、スタディ・スキルとしての議論(読み・書く・話す)の仕方に関する学習を主な内容として行われている。発表においては、の学びへの転換としてのクリティカルシンキングに特に焦点をあてて市販の初年次教育テキストの分析を行い、大学生の知的発達モデルを踏まえた上で有効な教育方法を提示する。これにより、学士課程教育を通して学生のクリティカルシンキングを涵養するための基礎を導く。

地域課題をテーマした学部混成ワークショップによるジェネリックスキルの育成 ... 16:40~17:00
吉村 充功(日本文理大学)

日本文理大学では、教育理念の一つである「人間力の育成」を具現化するため、その中心科目として低学年の実践型キャリア教育科目「社会参画」関連授業を全学必修科目として開講している。これらの科目は、全学組織である人間力育成センターが内容を企画、構築し、授業は各教員がクラス毎に実施している。本研究では、文系理系の学部混成チームによるワークショップにより、ジェネリックスキルの向上を実践的に図る1年後期「社会参画実習1」について、平成24年度にリニューアルした内容とその効果について報告する。具体的には、地元自治体と協働し、地域課題をテーマに解決策の提案を行った。地域社会の一員として身近なテーマにグループで取り組むことで主体性などを引き出した。

社会における基礎力としてのキー・コンピテンシー - 育成の為の授業事例を中心に - ... 17:00~17:20
中村 博幸(京都文教大学)

まずキャリア教育とキャリア形成教育には異なる部分があると捉える。その部分を強いて言うならば、前者は就職につながり、後者は自己形成につながると言える。同様にOECDのキー・コンピテンシーの概念は、即キャリア教育 就職ではない。キー・コンピテンシーの必要性や内容は、その人が社会に適応(適用)する為のものであり、その結果として就職につながるものである。本研究では、促成栽培を避け、自己形成を行う事が結果的に社会人基礎力を育成するという立場に立つ。その考え方の内容を述べる共に、現場実践科目(プロジェクト科目)としての授業展開の事例を報告する。

工科大の教職課程における初年次教育 16:00~16:20
木村 竜也、伊藤 大輔(金沢工業大学基礎教育部教職課程)

工科大学を含む非教育系大学においては、教職科目の多くは卒業単位とはならない。したがって、非教育系大学で、教師になることを目指す学生が自分の目標を達成するために要する努力の量は非常に大きなものとなり、教職課程を受講する早期の段階で教師を目指すことの大変さを理解し、教職に対する動機づけを高めることは非常に重要である。本発表では、1年次開講の教職課程導入科目「教師入門セミナー」を初年次教育科目と位置づけ、そこで実施した内容を報告する。さらに、それらについての学びによって、受講生の教職課程に対する動機づけがどのように変化したのかの分析を試みる。

行動変容ステージ毎の体力変化に対するポートフォリオの影響 16:20~16:40
青木 隆、川尻 達也(金沢工業大学)

学生にとって生活が変化した入学時に、運動を含めた正しい生活習慣を獲得することは重要と考え、ポートフォリオの導入がその学習意欲や動機に与える影響について調査してきた。その結果、「食事の規則性」や「栄養バランス」などと比較し「睡眠充足度」「運動満足度」など環境要因により影響されやすい項目については他のアプローチの必要性を認めた。次に健康維持行動の変容を5つのステージに分けて、各ステージにおけるポートフォリオの影響と体力の変化について調査した。その結果、生活習慣や体力の状況と行動変容の「関心」には関係を認められなかった。また「無関心期」「関心期」「準備期」では体力に変化は認められなかった。

自校教育におけるテレビ映像の活用 16:40~17:00
近藤 尚(中部大学全学共通教育部・初年次教育科)

所属する大学・学部・学科についての理解を深める「自校教育」は初年次教育において非常に重要な位置を占める。その自校教育において、テレビ映像の活用が効果をあげている。発表者は中部大学における全学共通教育科目「映像を読む」の授業の一部として毎回「中部大学のさまざまな研究や研究者、施設などがとりあげられたテレビ映像」を学生たちに見せてきた。その結果、学生たちの「自校の教育・研究の理解」「愛校心の向上」「やる気や学習意欲の向上」に一定の効果が見られた。これまで大学において収集・保存・活用が軽視されがちだったテレビ映像の、自校教育に対する効果について発表する。

学術団体が初年次教育の教科書を開発する意義

漢字文献情報処理研究会による取り組みを例に 17:00~17:20
師 茂樹(花園大学)

発表者が代表を務める漢字文献情報処理研究会では『大学で学ぼう知のスキルアップ15』(好文出版、2013年)を刊行した。本会は、人文学(特に東洋学)におけるコンピュータ利用についての研究と情報交換を行うために発足した学術団体であるが、これまで研究会として様々な議論をしてきたなかで、教育の問題というのが一つの大きなテーマになっていた。すなわち、どんなに研究のためのデジタル技術が発達しても、そもそも学生・大学院生が主体的な問題意識を持たない限り、会が目標とするような研究の発展にはつながらない、という問題である。本発表では、学術団体が初年次教育に関わる意義について考察したい。

ルーブリックの活用による「音楽」の学習効果について 16:00～16:20
朝日 公哉(玉川大学教育学部乳幼児発達学科)

学士課程教育における客観的評価に慣れていない学習者に対し、ルーブリックを活用する事の学習効果をデータ化しその有用性を発表する。特に発表者の担当する教師養成課程における「音楽」の教科特性が顕著であり、「心の教育」という極めて主観的な教科目標を可視化する事によって、客観的に示すとともに、学習者自身の到達度や自己分析、目的意義の明確化を図るものとした。

具体的な研究の要領は、初回授業よりルーブリックを配布、周知し、毎時間授業後に自己評価をさせデータをまとめるものとする。

全学的に行われる初年次教育のプログラムの評価と課題 16:20～16:40
遠海 友紀、村上 正行(京都外国語大学)

京都外国語大学で全学的に実施されている初年次教育のプログラムを評価し、課題を明らかにするために、受講生や授業を担当する教員へのアンケート調査とその分析を行った。発表では、その結果を報告する。まず、該当授業である「言語と平和」の概要を紹介した上で、学生に対するアンケート調査から本授業の有効性を検討する。さらに、教員によるアンケート調査の結果から運営上の利点・問題点などについて検討する。これらを通して、「言語と平和」の今後の進め方について検討すると共に、全学的にとり行われる初年次教育のよりよい内容やプログラムの運営について提案することを発表の目的とする。

大規模学生調査データベースのニーズとその構築 - JCIRPDB作成の試み - .. 16:40～17:00
堺 完(同志社大学大学院) 木村 拓也(九州大学)
西郡 大(佐賀大学) 山田 礼子(同志社大学)

自己点検・自己評価や第三者認証評価により、大学は「エビデンス」に基づいた運営を求められている。以上のような潮流に対応するため、多くの大学では何らかの学生調査を行い、学生の情報を集め、その結果を少しでも学生支援や教学改善などに役立てようと試みている。本発表は、2005年度から「大学生調査プロジェクト(JCIRP)」が実施している全国規模の学生調査研究の一環として行った調査データのデータベース化の試みと、過去当該調査に参加した大学関係者に実施したデータ活用実態及びデータベースのニーズ調査について、その概要と結果について報告し、現在作成中のデータベースのデモンストレーションを行うことにする。

「自己評価型簡易ルーブリック」の試行
～ジェネリックスキルの効果測定に向けて～ 17:00～17:20
古賀 暁彦(産業能率大学情報マネジメント学部)

学士課程教育でのジェネリックスキル養成が求められる中、その学習成果・効果測定の方法についての関心が高まっている。産業能率大学情報マネジメント学部では、2年前期の必須科目である「チーム学習ゼミ」において、ジェネリックスキルの効果測定的手段として「自己評価型簡易ルーブリック」を試験的に導入した。本ルーブリックでは、「対話する力」「チームで考える力」「発表する力」「活動を振り返る力」の4つに分類される15のスキルを、学生自身に自己評価させた。本発表では、自己評価型ルーブリック導入の背景とその運用方法、教師の成績評価と自己評価の関連性等について報告を行う。

キャリア教育と進路指導の教職協働の成果と課題 16:00～16:20
辰島 裕美(北陸学院大学短期大学部コミュニティ文化学科)

キャリア教育は学科内の調整は科目担当者が行えるが、その範囲は正課のみならず、正課外や学外にも及ぶ広いものであり、全体的なプログラムの整備が問題であると考えます。

本学科では、2012年度からキャリア教育を充実させた新カリキュラムがスタートした。1年が経過し、ここで明らかになった課題とその対応策を述べる。また、進路に関する個別の相談について、学生支援課の課員と学科の教員、および就職担当教員の役割分担などの実施方法やその成果を報告する。

初年次におけるキャリア教育導入の試み - 東京国際大学を事例として - .. 16:20～16:40
田部井 潤(東京国際大学)

平成23年4月施行の大学設置基準の改定により、大学にキャリア教育の導入が義務づけられた。これを受けて、各大学ではキャリア関連科目の設置が進められてきた。しかしながらその多くは、就職のための資格取得や実際の就職活動における具体的手法に偏っている様に見受けられる。他方、新規大卒者の就職状況や雇用環境は、これまでのものとは、質的にかなり異なったものとなってきた。本報告では、事例を参考に、大学教育におけるキャリア教育のあり方を考察する。

福岡工業大学の全学初年次必修科目「キャリア形成」による就業力育成の効果 .. 16:40～17:00
小田部 貴子(福岡工業大学・FD推進機構)、宮本 知加子(同・FD推進機構)、
中野 美香(同・工学部)、阿山 光利(同・社会環境学部)

福岡工業大学では、平成24年度より全学1年次前期の必修科目として「キャリア形成」が開講された。本科目では、「志向する力」(将来の職業や生き方について自ら考え、目的とする方向を目指して行動していく力)や「共働する力」(共に考えを伝え合い、協力しながら活動する力)の育成をねらいとしており、その効果測定を行うために、受講前後において学生に自己評価を行わせた。本発表では、その分析結果について報告し、本講義において就業力育成に有効であったと考えられる点や、今後必要と考えられる改善点について考察を行う。

利用度を高める電子ポートフォリオを目指して 17:00～17:20
絹川 直良(文京学院大学)

学生側、教職員側双方の電子ポートフォリオ利用度をどのように高めるかという切実な問題について、クラウドコンピューティングを利用し自主開発したポートフォリオ上で、教職員を対象にテクニカルなサポートを駆使した事例を紹介する。ユーザーに近い場所で、非常に短いサイクルで電子ポートフォリオの改良を重ねることが、日常のミドルやマイクロFDを支えることを示す。また、教職員の負担を増加させずに学生との双方向のやりとりの内容を深化させることが可能であることも示す。既存のシステムの制約を抱えながら、ポートフォリオの電子化推進という課題を抱える中規模の大学関係者にとって、参考となるよう内容を工夫したい。

()内の発表者所属は、発表申込時のものをそのまま掲載しています

医療関係専門学校における初年次教育の実施に関する実態報告(第3報)..... 16:00~16:20
河井 正隆、畑中 仁美(明治東洋医学院専門学校)

初年次教育は大学教育の場でさまざま議論されている。しかし、専門学校ではその議論は希薄であると思われる。大学以上に多様化した学生を抱える専門学校においてこそ、大学教育同様、否それ以上に初年次教育についてさまざま議論されるべきだと思われる。そこで今回、専門学校教育で初年次教育を議論するための、基礎的資料(追跡調査)の収集を試みたので報告する。具体的には、医療関係専門学校の一領域を事例的に取り上げ、平成22年調査との比較で初年次教育の現状と課題を報告する。今回の報告内容は、3年前との比較から、初年次教育の実施状況、初年次教育の内容、初年次教育の教育的効果などを報告する。なお調査票の回収率は、全国の鍼灸・あんまマッサージ・指圧師養成校(公社東洋療法学校協会加盟校)46校中31校(67.4%)である。

理学療法士養成校としての初年次教育の在り方の検討

- 本学理学療法専攻における実践紹介 - 16:20~16:40
鈴木 誠、古林 俊晃、西山 徹、藤澤 宏幸、黒後 裕彦
(東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科)

当専攻では初年次教育の一環として、入学前ガイダンス、サマーセミナー、朝食勉強会等を開催し1年次生のより円滑な大学教育への移行の支援を行っている。これらの取り組みでは、大学で学ぶための心構えを早期に整えること(入学前ガイダンス) 集団生活を通じて情意領域の育成を図ること(サマーセミナー) 生活習慣の改善を促すこと(朝食勉強会)等を主目的に掲げている。企画に参加した学生のアンケート結果では、プラスの行動変化を読み取ることが出来、一定の教育効果があったと考えている。一方で、企画を通じてその後の友人関係の構築に不都合を生じたという事例も僅かに見られ、今後の内容の検証が必要であると考えている。

学生特質を活かした看護学科における初年次教育としての「基礎ゼミ」の役割 .. 16:40~17:00
鮫島 輝美、野村 幸子、矢吹 明子、荻田 美穂子(京都光華女子大学)

近年、学生の「質」が変化し、大学教育、特に初年次教育の重要性が謳われている。学生の特徴として挙げられているのは、「学習意欲がない」「基礎学力がない」「受け身である」など非常にネガティブなものとなっている。背景として、大学の大量化、大学全入時代という社会の変化が考えられているが、このような学生の「適応不全」を、学生個人の能力ではなく、包括的解決策として、「基礎ゼミ」を位置づけている。その役割を 基礎的学力支援(前期) 科学的思考力支援(後期) コミュニケーション能力支援 校訓の理解・実践適用支援 主体性の醸成、とし半年間、協同学習を導入した授業を展開した。当日は、学生の反応を含めた実践について報告する。

ディベートとコラボで行うレポートライティングの実践報告 16:00~16:20
西田 みどり(学習院大学)

現在の大学生は、自分の意見(主張や見解)をはっきり述べないと言われている。学校でのイジメが問題になる中、他者に気を遣い、場の空気を読んで行動することが習慣になっているためだろう。自分の意見があってもそれを口にするのを遠慮してしまうのだ。そういう習慣ができてしまうと、意見を持つことは次第に難しくなる。そんな大学生がどうすれば意見を明確に打ち出したレポートを書けるようになるだろうか。そのために行った試みが、ディベートとコラボするライティング実践である。ディベート・テーマとしたのは「正解のない問い」で、ハーバード大学のマイケル・サンデル教授が提示した問いを使用した。1グループ4人、2対2で肯定・否定に分かれて論証する、20分程度で終了するマイクロディベートだ。その後、同テーマで800字程度の文章を書く。ディベートでの肯定側・否定側は関係なく、自分の意見を主張し論証する文章である。他者の意見を聴くことで自分の意見が認識でき、相手を論破しようと論証法を真剣に考えた直後だから、それが文章に反映し、意見を主張したものが書ける。その実践過程をご報告したい。

文字情報の共有に基づく文章作成・読解指導の改善

- 聴覚障がい学生を交えた初年次ゼミ指導 - 16:20~16:40
藤波 潔(沖縄国際大学総合文化学部)

初年次ゼミ教育における文章作成・読解指導に関して、従来、担当者による説明に基づいて文章を作成、あるいは読解させ、その結果を添削し、返却するといった「個(教員)対個(学生)」の関係に基づく授業形式をとってきた。この形式は効率的な指導が可能となる反面、ゼミの特徴が活かされていないことが問題だと感じていた。たまたま、聴覚に障がいを持つ学生がゼミ生となったことを契機として、従来の形式の良さを残しつつ、ゼミ生相互の協力で文章を作成・読解する方法を模索し、たどり着いたのが「文字情報の共有」だった。本報告では、文字情報の共有に基づく文章作成・読解指導が、聴覚障がい学生以外の学生に与えた効果を踏まえながら、その有効性を検証することを目的としている。

自己省察としての文章表現 「日本語リテラシー」の教育実践を事例として 16:40~17:00
谷 美奈(帝塚山大学全学共通教育開発センター)

現在、多くの大学が初年次教育を模索する中、特にレポートの書き方や論文の書き方といったアカデミックスキル、すなわちリテラシー(読み書き能力)に関する科目を設置している。これらの特徴は、専門学術的知識やスキルの提供など、教育上の有用性をねらいとして取り組んでいることにある。だが、そのために問題がテクニカルな意味における文章指導に限定されているとするならば、文章表現教育の現代的意義が見失われる怖れがある。「大学生の文章力低下」を追求すれば、自己と世界の双方にまたがる認識の起点というべき私 がうまく機能していないこと、すなわち「学びの主体の未形成」という問題につきあたらざるをえない。

本発表では、この課題解決の有力な手掛かりとして、京都精華大学「日本語リテラシー」の「自己省察を中心にすえた文章表現とその作品化」の教育実践に着目する。

14日(土)

高大連携・新入生オリエンテーション・FD・SD

8・301

関西大学における高大連携の試み

～ Kan-Dai ネットレス・セミナーの実践内容とその成果～ 9:20～9:40
小林 至道(関西大学)

高大接続の問題は、初年次教育研究において重要な課題の一つとされている。問題の背景として、高校までの受身的な学習姿勢から大学で求められる主体的な学習姿勢への移行の困難がこれまで指摘されてきた。そこで、関西大学では高校生を対象に、ネットレス・セミナーという高大連携の実践を試みている。これは、一つのテーマを異なる教員で担当し、ネットレスのようにつないでいく授業を通して、大学での学びを先行的に体験してもらうことを企図したものである。本発表では、「アクティブラーニングで大学生の学びを体験してみよう」というテーマのもと、クリティカルリーディング・プレゼンテーション・ディスカッションなどの方法を用いて、2013年度に行われた授業実践例とその成果を報告する。

熊本保健科学大学における「教・職・学」協働の取組み

～ 新入生オリエンテーションにおけるピア・サポーターの参画事例～ 9:40～10:00
河瀬 晴夫(熊本保健科学大学)

大学のユニバーサル化に伴い、多様な学生が大学に入学してくる中、真面目でコツコツと努力しているにもかかわらず高校型の受け身的な学習から抜け出せずに留年してしまう学生が散見されるようになってきた。高校型の学習から大学型の主体的な学修への転換は、大学入学当初に大半の学生が取り組まなければならない課題であり、大学としての何らかの支援が必要であると考えられる。

今回、熊本保健科学大学では、上述支援策の一つとして、新入生オリエンテーションを活用した新入生の「学習」から「学修」への意識改革を目的とした「教・職・学」協働の取組みを試みたので報告する。

ARCSモデルに基づく授業改善による成果とその要因分析

1年生向けキャリア科目の学生評価とジェネリックスキルの成長値を比較して.. 10:00～10:20
見館 好隆(北九州市立大学キャリアセンター准教授)

本学の1年生向けキャリア科目の授業の一つ「キャリアデザイン」について、本学および学外のFDセミナーでフィードバックをいただきながら作成した「簡易版設計プロセスを支援する点検表」(Sukuki & Keller1996)を用い、授業改善を試みた。その結果、改善前の2011年度の本授業と、改善後の2012年度および2013年度の本授業について、学生の評価(授業アンケート)および本授業にて育成を企図したジェネリックスキルの成長値(プレ・ポストの差)を比較し、本授業の改善が成果(学生の評価およびジェネリックスキルの成長)に結びついているのかを分析する。また、その要因について、本改善の軸であるアクティブ・ラーニングに注目し、本授業の最終レポートの自由記述を用いて考察する。

()内の発表者所属は、発表申込時のものをそのまま掲載しています

学生と共に学生の主体的な学びを推進するFD:

授業デザイン・実践・学習環境・学習支援のあり方 10:20 ~ 10:40
清水 亮 (同志社大学学習支援・教育開発センター)

昨年夏の中教審の答申は、大学教育のさらなる「質的転換」を求めている。学生が、何ができるようになったのかが問われている。初年次教育における学習支援では、『大学の教育力 - 何を教え、学ぶか』(ちくま新書2007年)で示された学生の4類型や、『初年次教育の現状と未来』(世界思想社2103年)で示された学生の4タイプを念頭に置き、目の前の多様な学生のタイプ全体に対応できる授業デザイン・実践・サポートの実現が求められている。そのためには、まず授業改善の取り組みが求められることになる。どのように授業中に学生とのコミュニケーションチャンネルを築き、学生のタイプに応じてどのような授業デザイン・実践・サポート(学習環境・学習支援)が効果的か考察したい。

学生の対話力やセルフチェック力を高める<型>をいかした文章表現の試み 9:20~9:40
 坂東 実子(敬愛大学国際学部 非常勤)・東京外国語大学留学生日本語教育センター(非常勤)

近年の学生はきちんとした言葉遣いや論理的文章・口頭発表などに触れる機会が少ない。自分が過去に接した経験のほとんどないものを、大学で、急に自分でやるのは難しく、完成度に自信が持てない学生も多い。自分で作成したものをセルフチェックできる基準を学ぶことで、学生の学習意欲が増し、表現の能力も向上するだろう。また、自己中心的で一方的な論理展開をしがちな学生も多い。彼らの対話力を高め、説得力のある表現ができるようになるための<型>をいかした効果的なインプットのしかた、および、ゆくゆくは学生が自力でどんどん表現して行ける構成力、セルフチェック能力の育み方について、大学初年次教育の試みを紹介したい。

高校での学習スタイルを大学での学びに結び付ける試み

- ノートを中心とした講義展開 - 9:40~10:00
 皆川 雅章(札幌学院大学)

初年次学生の高校段階までの、「板書のノートを取る」という学習スタイルを大学での学びに結び付ける試みを行った。90分の講義を、大きく3つに分け、最初と最後の20分を小テストと演習、その回の中心となる部分の50分は、講義の説明内容をノートに取らせる。高校で50分授業のリズムに慣れた新生にとって、90分間同じペースで講義を受け続けることは、集中力の持続が困難であり、前後に演習をはさみ、説明を50分にするには意味があると考えた。講義中の説明や教材提示は、板書やプリント配布以外に、内容に応じてタブレット型端末を活用して行い、その内容をノートに取らせ、並行して、メモやノートの取り方の指導を行っている。学科の概論科目と専門基礎科目における実施結果を報告する。

私立文系大学生の演繹力についての調査結果(何をどう間違えるのか) 10:00~10:20
 萩尾 由貴子(久留米大学非常勤講師)

近年、学生の論理的思考力・理解力の低下を指摘する声が大学の内外で増えているが、論理的思考力・理解力の具体的な内容にまで踏み込んだ議論は少ない。本研究では、2012年、2013年春に私立文系の大学生(主に1年生・600人程度)に実施した推論テストの結果を報告する。今回は論理的思考力の基礎となる演繹力に焦点を当て、それを測る5問の問題を作成。実施した。学生が何をどう間違えるかについて分析した結果、高校数学で習う演繹が学生の日常の言葉にうまく接続していないことや多くの学生に共通する思考の癖がみえる。これらを踏まえて彼らの演繹力を高めるための推論や数学の授業を提案したい。なお、本研究では、大学の入試形態別の演繹力についても調べている。

京都大学における全学共通教育国際学生シンポジウムの初年次教育での有用性の検討 .. 10:20 ~ 10:40

木岡 樹、小山田 耕二(京都大学国際高等教育院)

戦後の新制大学の教養教育は、アメリカ型教養教育を手本に人間教育を理念として導入されたが、実際には専門教育のための基礎教育として位置づけ実施されてきた。その結果京都大学でも、研究基礎力に必要な総合的な判断力を培うために必要な、論理的思考、批判的思考を十分に育成することはできてこなかった。これらの問題を解決する方法の1つとして、2010年から、初年次生が自ら課題設定を行い研究し、論文執筆、口頭発表までを行う全学共通教育国際学生シンポジウムを実施している。筆者らは今回、参加者、聴講者からのアンケート結果から、シンポジウムが研究基礎力の育成に貢献することを示唆する結果が得られたので報告する。

修学アドバイザーの効果と課題 GPA推移および面談票に基づく分析 9:20~9:40
古阪 肇(早稲田大学教育・総合科学学術院) 森下 稔(東京海洋大学)

本発表では、東京海洋大学海洋工学部において2007年度から導入された修学アドバイザー制度の効果の検証と課題について整理・分析・考察を行う。同制度には、各学生のGPAおよびその推移に着目し、修学上の問題がある学生に対して面談を行うことで、留年・退学を未然に回避する目的がある。今回は、2007年度前期から2012年度前期までの面談対象者のGPAと面談の際に使用した質問票を基に分析を試みた。同分析からは、修学アドバイザー制度の実施によるGPAの劇的な変化は見られなかった。しかし、分析結果から退学になる可能性が高くなるGPA値の基準が想定できた。また課題として、質問票の形式の見直しや面談担当教員同士の連携等が挙げられる。

大学生の状況に応じた支援の在り方を検討するための基礎調査(2)

- 帝京平成大学児童学科初年次学生における一年間の不安変容 - 9:40~10:00
奥井 智一郎、大貫 麻美(帝京平成大学現代ライフ学部児童学科)

発表者は、大学生の状況に応じた支援の在り方を検討するために、学生の抱く不安について、大学入学時から卒業時まで継続的に調査し分析する研究を実施中である。昨年度の第5回大会においては、研究の第一報として、初年次学生の入学当初の不安が新入生宿泊研修を含めた数週間の大学生活の後、有意に下がったことを報告した。今回は、その後の調査結果をふまえ、初年次学生における一年間の不安の変容について報告する。現在のところ一大学一学科での調査に過ぎないため、発表を通して他大学と共通する傾向があるのか議論したいと考えている。

初年次教育における海外体験学習の意義と課題

~ 立命館アジア太平洋大学の「FIRST」を事例として ~ 10:00~10:20
立山 博邦、秦 喜美恵(立命館アジア太平洋大学教育開発・学修支援センター)

近年、学生の学習意欲・動機を喚起する教授法として体験型学習が注目されている。その代表的なものとしてフィールドワークやサービス・ラーニング、海外体験学習が挙げられる。初年次教育においても前者2つは大いに取り入れられている手法であるが、後者を初年次教育の一環として組織的に実践している大学はまだ少ない。立命館アジア太平洋大学では、学生に入学後早い段階で世界の言語・文化や世界の人々との交流に興味を持ってもらい、大学が提供する国際的な学習環境や機会を在学中に積極的に活用してもらうよう促すべく、2007年度より新入生を対象に短期海外研修プログラムを正課科目として提供している。本発表では、当該プログラムを事例として、初年次教育における海外体験学習の意義と課題について検討する。

図書館利用を促進する授業デザイン 10:20～10:40

上野 寛子(明治学院大学教養教育センター)

学生の主体的な学びを引き出すには、教員による授業改善努力が大変重要である。授業内容やその進め方、授業形式の工夫や見直し、理解を深める学習課題を適切に設定する必要がある。同時に、学習環境を充実させることも重要である。近年、図書館をラーニングコモンズへ改修する動きが進んでいるが、授業内外での学習を支援する“学びのベースキャンプ”として、大学における図書館の機能を新たに価値づけるものである。図書館を活用できるようになれば様々な力を効率的に伸ばすことができる。では、どのような授業を行えば図書館をどのくらい利用するようになるのか？図書館利用を促進する授業をデザインし、昨年度から実践している成果を報告する。

高大接続教育をめざす「高大連携数理教育研究会」の実践 9:20~9:40
大久保 貢(福井大学アドミッションセンター)

高大連携を推進するために、「高大連携数理教育研究会」を設立した。この研究会は、高校の先生方と福井大学の教員との情報交換により、高大双方の教育現場に効果をもたらす数学および理科の教育方法を研究し、実践することを狙いとした。この研究会では、「数学分科会」と「理科分科会」に分かれ、高校教育と大学教育の高大接続の一環として、高校教育から大学の初年次教育にスムーズに移行できることを目的に高大双方による授業参観を企画し、実施した。そして、数理教育に関する高大双方の問題点や教科の指導方法等を議論した。その結果、大学入学前後の高校生・大学生の「学びの転換」を考える機会となり、高大接続の意義と課題を共有することができた。

工科系大学新入生の入学から3ヵ月後の満足感および適応感に影響を与える要因
大学進学動機・学業状態および友人関係からの影響 9:40~10:00
石田 拓矢(東京電機大学)

本研究は工科系大学の初年次教育(正規カリキュラムの授業)の充実のために、工科系大学新入生の入学から3ヵ月後の7月満足感および7月適応感に影響を与える要因は他分野の新入生とは異なることを明らかにすることが目的である。

7月満足感を従属変数として階層的重回帰をステップワイズ法で行った結果、昼間部の学生の場合、「大学進学動機」の3項目および「学業状態」の3項目が有効な変数であり、「友人関係」の項目に有効な変数はなく、最も影響があったのは「講義内容不満」、次いで「教員不満」、「授業についていけないと感じている」であった。学問や将来についてイメージや目標を持って進学してきているが、現実には基礎的なことなどを学ばねばならず、期待を裏切られたような気持ちになっている可能性がある。初年次教育では、基礎的な学修や積み上げ式の学修の成り立ち・必要性の丁寧な説明が求められるといえる。

工学院大学情報学部初年次教育の成果と今後の展望 10:00~10:20
二上 武生(工学院大学教育開発センター)

工学院大学の初年次教育は学部の特性にあわせて学部独自に行っている。工学院大学情報学部はプログラム技術者を目指す学生が多く、理工系学生に一般的に言われているようにコミュニケーション力が弱い。「PC組み立て実習」など、情報学基礎の要素を取り入れながら、コミュニケーションスキル研修やグループワークをあわせて行い、ジェネリックスキルの向上を目指している。大学生活スタート時に、人と一緒に協働作業を行い、達成感を味わう経験を提供する。教育開発センターという全学的な立場で、事例を紹介するだけでなく、初年次教育の目的から照らし合わせ、客観的データをもとに成果を検証し、今後の展望を述べる。

初年次教育で出た芽を専門教育で如何にして育むか・・・理系専門基礎科目での試み 10:20～10:40

滝澤 昇(岡山理科大学工学部バイオ・応用化学科)

近年、ほとんどの大学において初年次教育が実施され学生を「自主的な学び」の世界へ誘っている。しかしながら初年次教育で出なかった「自主的な学びの芽」をその後の授業において十分に育むことができていないのが現状であろう。特に理工系では大量の知識の積み上げが必要なことから、教室での講義に於いては教員からの一方的な知識の伝授となりがちである。発表者は、授業時間外の学生自身の学びはアクティブラーニングであるとの考えに基づき、2年次の専門基礎科目「生化学」において詳細な私製シラバスとLMSを活用して自主的な時間外学習を促すとともに、毎回の講義時間においてはグループによる授業内容の情報交換と振り返り、まとめの発表、更には期末のラーニングポートフォリオ等の手法を取り入れている。

初年次キャリア教育のデザイン:進路決定効力感の観点から 9:20~9:40
伊藤 大輔、木村 竜也(金沢工業大学基礎教育部教職課程)

進路決定効力感とは、Taylor&Betz(1983)が提唱した概念であり、「適切な進路意志決定についての自信」を意味している。本概念に着目した研究としては、例えば浦上(1995)、古市(1995)、児玉・松田・戸塚・深田(2002)、古市・久尾(2007)、松田・前田(2007)などがあるものの、キャリア教育の構想と関連づけたものは管見らの限りみられない。そこで本研究では、大学1年生を対象に進路決定効力感、就業不安、職業忌避的傾向の実態を調査し、それらの関係性について検討するとともに、初年次におけるキャリア教育の構想に向けた基礎的知見を得ようと試みるものである。

ポジティブ心理学モデルに基づく初年次教育による肯定的自己観の育成 9:40~10:00
稲垣 久美子(明治大学政治経済学部)

筆者が所属する大学で初年次の学生を対象に開講されている授業科目「基本演習 キャリアデザイン」において、ポジティブ心理学モデルに基づき開発された心理教育的介入プログラムを導入して、肯定的な自己観の育成を目的とした授業実践を行った。本授業の効果をいくつかの心理尺度を用いて測定した結果、本授業に取り入れたポジティブ心理学モデルに基づくさまざまなワークへの参加を通して、学生が自己理解を深め、自分らしさの感覚を強めて肯定的に自分という存在を受け入れられるようになったことが示唆された。今回の発表では、本授業科目の概要、及び、授業の効果を測定した結果について報告する。

初年次段階における全学生を対象としたキャリアカウンセリングでの効果:
大手前大学における教育ボランティア実践 10:00~10:20
竹内 一真(大手前大学就業力育成支援室)

大手前大学では現在学外の社会人を学内の学生に対してキャリアアドバイスを行う教育ボランティア制度を取っている。本発表では初年次の全学生を対象に行なったキャリアカウンセリングの実践と効果を明らかにする。キャリアカウンセリングは全4日間にわたって行われた。カウンセリングの前週に授業において自らのキャリアを設計した後、課題として設計したキャリアプランをもって教育ボランティアに面会に行くように指示をした。教育ボランティアは体育館に20人前後配置して、学生1人に対して12分を使ってカウンセリングを行った。

「社会人セミナー」が初年次における学生のキャリア意識に与える影響 10:20~10:40
安田 俊一、熊谷 太郎、松井 名津(松山大学経済学部)

松山大学経済学部では初年次生むけプログラムとして様々なキャリアパスを持った社会人に触れる「社会人セミナー」を実施している。これは初年次生よりキャリア意識を涵養し、目的意識を醸成することによって大学生かつ全般への意欲を引き出すことを目的としている。このセミナーの効果を測定するために、アンケートによりセミナー参加者のキャリア意識の変化および対照群(非参加学生ならびにオリエンテーションプログラム参加の有無)を設定した比較分析を行った。その分析結果を報告する。

()内の発表者所属は、発表申込時のものをそのまま掲載しています

大学入学者のキャリア成熟に関する一考察:

お茶の水女子大学「新入生の生活に関する調査」を通して 10:40 ~ 11:00
望月 由起 (お茶の水女子大学学生・キャリア支援センター)

本発表では、発表者の所属する大学に入学することが決定した者およびその保護者に対して実施している調査(「新入生の生活に関する調査」)に基づき、近年の大学入学者のキャリア意識、とりわけ、「キャリア成熟(career maturity)」に着目した一考察を行う。キャリア成熟は、進路選択やその後の適応への個人的レディネスを測定・評価する目的で使用されることが多く、進路指導やキャリア教育がその達成を目指してきた概念である。大学入学者のキャリア成熟に目を向けることは、彼らへの教育・支援のあり方やその効果を捉える上で有益なものと思われる。本発表では、キャリア成熟に対する親の直接的・間接的影響にも実践レベルで目を向けていく。

医療系科目におけるアクティブラーニングの導入 9:20~9:40
小西 正良(大阪河崎リハビリテーション大学)

医療系や教員養成大学においては、必修科目が指定されている。医療系大学では各科目に国家試験出題項目が明記されており強い制約がある。科目担当者は、限られた時間内で項目をもらさないよう努力する。しかしながら、初年次学生に開講する専門科目においては、授業形態や環境の戸惑いや履修する学生の意識、意欲とのかい離が存在する。とくに高校の知識から高度な大学の専門的知識への戸惑いが大きな影響を及ぼしている。今回、ミニテストの実施、講義中での議論時間の導入、アセスメントの記述など複合的なアクティブラーニングの手法の導入を試みた。終講時の授業アンケートや翌年度選択科目履修数、国家試験正解率に変化をもたらした。

学習方法フローチャートを継続的に用いた初年次学習支援の成果 9:40~10:00
久司 一葉、田村 幸子、高山 直子、寺井 孝弘(金沢医科大学看護学部)

研究者らは、看護系大学初学者の学習状況の調査結果から、学習方法モデルを独自に作成した。第5回大会では、それをを用いた学習支援を紹介した。対象学生は3年生となり、同モデルを継続的に用いて、今度は、学習支援の成果を調査した。本大会では、3回の調査を経て、学生たちの学習方法の変化と読み取れる結果を得たので発表したい。

看護大学のフィールドワークを通じた社会人基礎力の育成 10:00~10:20
垣花 渉、川村 みどり(石川県立看護大学看護学部)

「知識技術的能力」、「意欲」、「社会性」は、自ら主体的に考え行動できる「自律型人材」を育成する上できわめて重要な役割を果たしている。一方、大学はこれまで正課で「知識技術的能力」を、正課外で「社会性」を中心に育むことを目的にした結果、「意欲」を充分には育み得なかったことが知られている。本研究の目的は、正課と正課外の重なりを増やす授業が学生の「知識技術的能力」、「意欲」、「社会性」の向上及び統合に及ぼす影響を調べることであった。そのため、初年次生が入学直後の半期にわたってフィールドワークを行ったとき、社会人基礎力の自己評価はどのように変化するかを調べた。併せて、学びの発見や生み出した価値等を定性的に調べた。

医療・看護系大学院初年次生に対する論文作成指導

- 序論の構成要素に着目して - 10:20~10:40
井下 千以子(桜美林大学心理・教育学系)

医療・看護系大学院初年次生に対する論文作成指導のあり方について、序論の構成要素に着目し、検討をおこなった。「論文の序論の構成要素を分析する。提示した資料を使い、序論を組み立てる。ピアレビューする。」という手順で指導したところ、指導の効果と、社会人大学院生に対する研究論文指導に向けた課題が明らかとなった。

()内の発表者所属は、発表申込時のものをそのまま掲載しています

大会参加のご案内

大会への事前参加申し込みを受け付けております。大会の運営を円滑に進めるためにも、事前申し込みにご協力ください。参加費および懇親会費の事前申し込みの締切りは7月31日(水)です。

なお、個人会員と機関会員、賛助会員では事前申し込み方法が異なりますので、ご注意ください。参加費金額は各区分とも同一です。第6回大会大会の口座番号は「00700-5-100735」、加入者名は「初年次教育学会第6回大会実行委員会」です。

・大会参加費および懇親会費(いずれも1人当たり)

大会参加費

	事前申込	当日申込
会 員	4,000円	5,000円
非 会 員	-	5,000円
個人会員(学生)	2,000円	2,000円
非会員(学生)	-	2,000円

会員の区分(個人・機関・賛助会員)によらず同一です

在学中の個人会員および非会員(学生)は、大会参加費が割引となっています。当日申し込まれる場合は、学生であることを証するものをご提示ください。

懇親会費

	事前申込	当日申込
会員・非会員	5,000円	5,000円

・参加申込方法

1. 個人会員

4月にお届けした振込用紙に必要事項を記入し、所定の金額を振り込んでください。領収書は大会受付でお渡します。払込取扱票を紛失等された場合は、大会事務局 < fye6-kit@mlist.kanazawa-it.ac.jp > までご連絡ください。

2. 機関会員および賛助会員

機関会員および賛助会員については、参加方法を別途ご連絡しております。4月にお届けした専用の振込用紙を必要事項を記入し、所定の金額を振り込んでください。領収書は大会受付でお渡します。払込取扱票を紛失等された場合は、大会事務局 < fye6-kit@mlist.kanazawa-it.ac.jp > までご連絡ください。

なお、機関会員としての大会参加は5名までです(学会細則第3条)。6人目からは非会員として大会当日にお申し込みください。

3. 非会員および事前申し込み締め切り(7月31日)後

大会当日、会場にてお申し込みください。

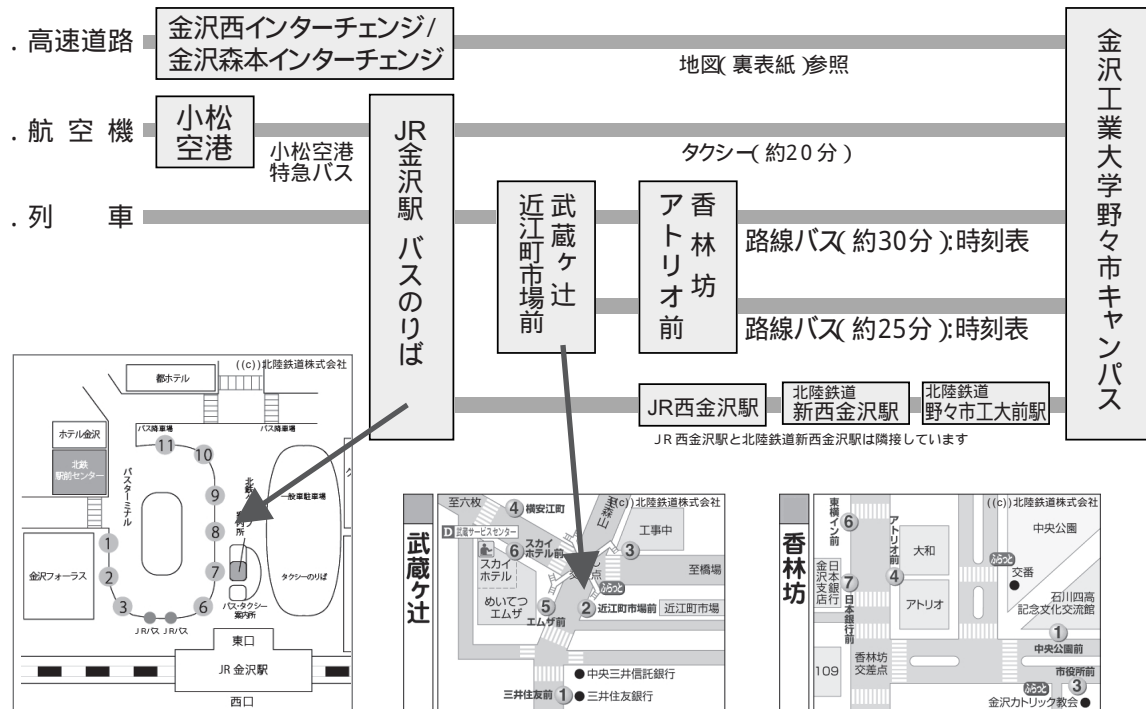
・宿所の手配について

金沢は観光地であり、ホテル、旅館等はたくさんあります。大会事務局が斡旋すると、料金がかかって高くなってしまう場合もあるため、宿所については各自での手配をお願いします。

大会当日は大きな学会等は予定されていませんが、連休直前のため、ホテルによっては予約が難しくなっているケースがあるようです。早めの手配をお勧めします。

交通アクセス

金沢工業大学扇が丘キャンパスへのアクセスについては大学のホームページ「交通アクセス」「扇が丘キャンパス」 < http://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/ogigaoka.html >) をご覧ください。
以下に主要な交通アクセスを掲載します。



・ 高速道路ご利用の場合

福井方面から高速道路利用の場合は金沢西インターチェンジより、富山方面からの場合は金沢森本インターチェンジより市内へお入りください。その後は裏表紙の地図の経路でお進みください。
なお構内に、大会参加者専用駐車場を用意しています。(41ページ「キャンパスマップ」参照)

・ 航空機ご利用の場合

航空機を利用される場合は、小松空港からJR金沢駅西口行きの北陸鉄道小松空港特急バス < <http://www.hokutetsu.co.jp/bus/airport/index.html> > をご利用ください。料金は1,100円です。
金沢駅からは下記の路線バスないしはタクシーをご利用ください。

・ 列車を利用する場合

列車を利用する場合、最寄り駅から金沢工業大学野々市キャンパスまでの経路が検索できます(経路検索サービス < <http://welcomenavi.jp/route/?content=wwf5meqfps&landmk=kit0001> >)。
金沢駅からは、タクシー、北陸鉄道石川線、北陸鉄道路線バスを利用できます。

1. タクシー

JR金沢駅前からの所要時間は通常20分程度、料金は2,500円程度です。

2. 北陸鉄道石川線

JR西金沢駅に隣接する北陸鉄道新西金沢駅から石川線 < <http://www.hokutetsu.co.jp/train/index.html> >

を利用して、野々市工大前駅で下車してください。表紙写真の高い建物(ライブラリーセンター)を目標にして東へ向かうと、徒歩約10分で野々市キャンパスに到着します。41ページのキャンパスマップもご参照ください。新西金沢駅 - 野々市工大前駅間の料金は210円です。

3. 北陸鉄道路線バス

北陸鉄道の「路線バス情報 < http://www.hokutetsu.co.jp/jikoku_haikei/index1.html >」から、「バス時刻検索システム < <http://arj.hokutetsu.co.jp/timetable/menu.php> >」を利用できます。PDF形式の「路線バス時刻表 < http://www.hokutetsu.co.jp/bus/1-bus/timetable_pdf/index.html >」もダウンロードできます。

JR金沢駅発金沢工業大学(41ページ「降車場A」)行きの直行バスは、平日朝の通学時間帯を除くとあまり多くありませんが、金沢市中心部(武蔵ヶ辻、香林坊、片町)から金沢工業大学行き、あるいは金沢工業大学バス停(41ページ「降車場B」)を経由するバスは多数運転されています。

JR金沢駅から武蔵ヶ辻へは、多数のバスが運行されています。徒歩でも10分程度です。JR金沢駅あるいは金沢市中心部から金沢工業大学までの料金は330円です。

(1) 金沢駅から金沢工業大学【時刻表】

JR金沢駅東口の「バスのりば」(38ページ参照)から下記のバスにご乗車ください。ほぼ「路線バス時刻表」“No.4”の路線です。系統番号に「」を付してあるバスは、キャンパスマップ(41ページ)中の「降車場B」に停車します。それ以外は「降車場A」が終点です。

【時刻表】

12日(木)、13日(金)						14日(土)					
系統	32	33	33	33	35	系統	32	33	33	33	35
行先	金沢工業大学	金沢工業大学	南部車庫	辰口和光台	金沢工業大学	行先	金沢工業大学	金沢工業大学	南部車庫	辰口和光台	金沢工業大学
経由	円光寺	寺地	寺地	四十万	久安大橋	経由	円光寺	寺地	寺地	四十万	久安大橋
7	3,20,35,45					7	12,47				
8	10,20,35				46	8	7	47			
9	12			31		9				10	7
10		7				10		7			
11		7				11		7			
12				31	7	12				21	7
13		2			32	13		7			
14				0	7	14				25	7
15				41	32	15		7		41	
16		52				16					7
17		47		12	22	17		7	22		
18		22		56		18				30	12
19		10	15	36		19		10		20	
20		10				20		30			
21			15			21			40		
22			3,48			22			45		
23			33			23					

(2) 武蔵ヶ辻、香林坊、片町から金沢工業大学【時刻表】

武蔵ヶ辻、香林坊(いずれも38ページ参照)片町を経由金沢工業大学行きか、金沢工業大学バス停に停車する路線です。「路線バス時刻表」の“No.7”に相当します。

系統番号に「」を付してあるバスは、「降車場B」に停車します。

【時刻表】

12日(木)、13日(金)						14日(土)							
系統	33	33	33	33	34	35	系統	33	33	33	33	34	35
行先	金沢工業大学	四十万	南部車庫	辰口和光台	金沢工業大学	金沢工業大学	行先	金沢工業大学	四十万	南部車庫	辰口和光台	金沢工業大学	金沢工業大学
経由	寺地	寺地	四十万	四十万	久安三丁目	久安大橋	経由	寺地	寺地	四十万	四十万	久安三丁目	久安大橋
7	21	4,27,45,49					7	21			19,59		
8		30	20,37,50		32,57	51	8	52	20,24			9	
9	21	20,30	5	36	45		9	21	4,20	35	15	19	12
10	12	10,20	0,30,43				10	12	35	5		50	
11	12,21	24	0,36		12,48		11	12,21		5,35		20	
12		30	0,15	36		12	12		35	5	26	50	12
13	7		0,15,30,45			37	13	12		8,45		27	
14	21	15	30,45	5		12	14	21	18	53	30		12
15		15,30	35	46	46	37	15	12		25	46	10	
16	21,57	0	15,30,45				16	21	2	37			12
17	52	10,45	25,35	17		27	17	12	40	10,27		25	
18	21,27	7	17,32,47		58		18	21		15,45	35	30	17
19	15	9	20,27,55	1,40	42		19	15		0,34	25	15	
20	14	28	10,55				20	34	14			39	
21		9	19,39		54		21			9,44			
22			7,52				22			49			
23			37										

交通アクセス

(3) 金沢工業大学「のりばA」から片町、香林坊、武蔵ヶ辻【時刻表】

金沢工業大学正門付近の「のりばA」から発車して金沢市中心部（片町、香林坊、武蔵ヶ辻）あるいはJR金沢駅へ向かうバスは本数があまり多くありません。

系統番号に「 」を付してあるバスはJR金沢駅を通りませんので、駅へ向かう場合は武蔵ヶ辻で乗り換えてください。なおすべてのバスが金沢市中心部を通ります。

金沢工業大学から金沢市中心部あるいはJR金沢駅までの料金は330円です。

【時刻表】

12日(木)、13日(金)						14日(土)							
系統	61,60	63	89	33	35	32	系統	61,60	63	89	33	35	32
行先	大野	大野港	東金沢	金沢駅	金沢駅	金沢駅	行先	大野	大野港	東金沢	金沢駅	金沢駅	金沢駅
経由	久安三丁目	久安三丁目	寺地	寺地	久安大橋	泉丘高校前	経由	久安三丁目	久安三丁目	寺地	寺地	久安大橋	泉丘高校前
6						30	6						30
7						5	7						10,30
8			10			30	8	43		10	35		15
9	14					30	9						15
10		13	20			10	10	12		20		15	
11					17		11		38		10		
12	31			27			12					10	
13			20		32		13	40		20	10		
14		15		52	32		14	40				0	
15			20	22,55			15		43	20	10	55	
16	55				22	25	16	45			20		
17		37	20	42	10		17			20		38	
18	0				35	30	18				5	43	
19		4		27			19	12				55	
20				30			20	41			50		
21	30						21				25		

(4) 金沢工業大学「のりばB」から片町、香林坊、武蔵ヶ辻【時刻表】

金沢工業大学付近の「のりばB」から発車して金沢市中心部（片町、香林坊、武蔵ヶ辻）へ向かうバスは多数運行されていますが、系統番号に「 」を付してあるバスはJR金沢駅を通りません。

金沢駅へ向かう場合は33系統のバスを利用するか、60系統「^{かないわ}金石行」に乗りして武蔵ヶ辻で乗り換えてください。なおすべてのバスが金沢市中心部を通ります。

金沢工業大学から金沢市中心部あるいはJR金沢駅までの料金は330円です。

【時刻表】

12日(木)、13日(金)			14日(土)		
系統	60	33	系統	60	33
行先	金石	金沢駅	行先	金石	金沢駅
経由	寺地	寺地	経由	寺地	寺地
6	59	45	6		
7	18,36,47	28,57	7	52	13,24,59
8	2,8,16,27,38		8	17,27,57	
9	1,29,44		9	25,58	44
10	0,29,43,58	20	10	28,59	
11	25,40,56		11	28,54	19
12	20,45		12	28,58	
13	0,26,36,49,59		13	28,58	
14	29,44,59	41	14	28,58	44
15	29,45		15	28	
16	5,30,43	20,58	16	3,33,58	35
17	13,28,53		17	38	45
18	11,22,43,57	10	18	15,53	
19	14,35,47,59		19	32	
20	23,44		20	19	
21		18	21	2	
22		30	22		

【お知らせ】

13日(金)の懇親会終了後、金沢市中心部（片町、香林坊、武蔵ヶ辻）を経由してJR金沢駅へ向かう無料バスを運行します。ぜひご利用ください。

【大学からのタクシー利用について】

金沢工業大学からタクシーを利用される際は、下記タクシー会社に「1号館(本館)正面玄関」とお伝えください。タクシーは右図の「タクシーのりば」に参ります。

大和タクシー：076-266-5166 石川交通：076-231-4131

キャンパスマップ

金沢工業大学扇が丘キャンパスへのアクセスについては大学のホームページ(「大学案内」「扇が丘キャンパス・マップ&アクセス」<http://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/ogigaoka.html>)をご覧ください。

大会行事の大半は8号館で行われますが、開会式およびシンポジウムは6号館多目的ホールで、懇親会は21号館「ラテラ」で行われます。



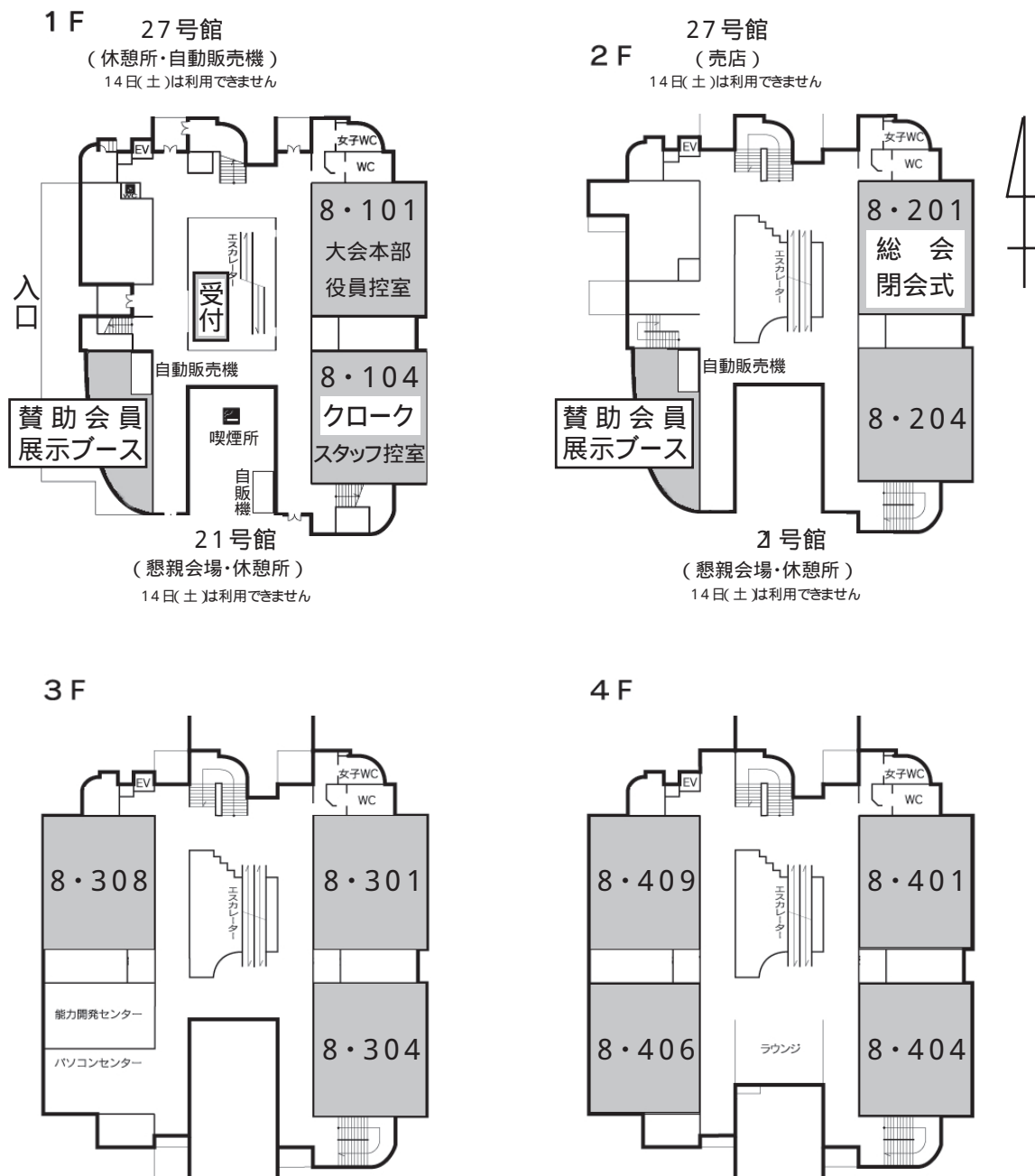
【お知らせ】

14日(土)は学園休業日のため、21号館「ラテラ」および27号館「イーグルネスト」を利用できません。悪しからずご了承ください。ただし8号館内の自動販売機は利用できます。

飲食、宅配便の利用等については、大学近辺の飲食店やコンビニエンスストアをご利用ください。

8号館フロアマップ

金沢工業大学扇が丘キャンパスマップについては、大学のホームページ(「大学案内」「交通アクセス」「扇が丘キャンパス・マップ&アクセス」<http://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/ogigaoka.html>)をご覧ください。



【お知らせとお願い】

大会会場の8号館は講義棟のため、少人数での打ち合わせに適した小部屋を用意することができません。申し訳ありませんが、打ち合わせや休息は21号館および27号館(いずれも14日〔土〕は使用不可)あるいは8号館4、5階のラウンジをご利用ください。

なお8号館内での飲食は問題ありません。

初年次教育学会第6回大会実行委員会および事務局名簿

【大会実行委員会】（印：会 員）

実行委員長	藤本 元啓	（金沢工業大学）
実行副委員長	西村 秀雄	（金沢工業大学）
実行委員	渡辺 達雄	（金沢大学）
	垣花 涉	（石川県立看護大学）
	岡野 絹枝	（金城大学短期大学部）
	本田 康二郎	（金沢医科大学）
	辰島 裕美	（北陸学院大学短期大学部）
	長久保 実	（金沢星稜大学）
	西 誠	（金沢工業大学）
	木村 竜也	（金沢工業大学）
	栃内 文彦	（金沢工業大学）
	長山 恵子	（金沢工業大学）
	金光 秀和	（金沢工業大学）
	石川 倫子	（金沢工業大学）
	陳 淑茹	（金沢工業大学）
	清水 節	（金沢工業大学）
	東 俊之	（金沢工業大学）
	伊藤 大輔	（金沢工業大学）
	鈴木 貴士	（金沢工業大学）
	川尻 達也	（金沢工業大学）

【大会事務局】（印：会 員）

事務局長	藤本 元啓	（金沢工業大学）
事務局委員	西村 秀雄	（金沢工業大学）
	西 誠	（金沢工業大学）
	栃内 文彦	（金沢工業大学）
	長山 恵子	（金沢工業大学）
	八尾 智子	（学会事務局員）

初年次教育学会第6回大会プログラム（配信用第4版）

2013年6月30日初版発行

2013年7月22日改訂第4版発行

編集・発行 初年次教育学会第6回大会実行委員会・事務局
（金沢工業大学基礎教育部 藤本元啓研究室内）
〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1
電話：076-248-9584 FAX：076-294-6701
URL：http://www.kanazawa-it.ac.jp/fye6/
E-mail：fye6-kit@mlist.kanazawa-it.ac.jp

印刷・製本 能登印刷株式会社
〒924-0013 石川県白山市番匠町293番地
電話：076-274-8770



金沢工業大学へのアクセス

< http://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/ogigaoka.html >



初年次教育学会 第6回大会実行委員会・事務局

【事務局】 金沢工業大学基礎教育部 藤本元啓研究室内
〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1
Tel. : 076-248-9584 FAX : 076-294-6701
URL : <http://www.kanazawa-it.ac.jp/fye6/>
E-mail : fye6-kit@mlist.kanazawa-it.ac.jp